男女貞潔之理想　會長 島田三郎

公娼廢止之主張　副會長 安部磯雄

5—493

廓清

第十巻第二號

東京　廓清會本部發行

明治四十四年八月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正[illegible]年二月二十五日印刷）
（大正[illegible]年二月二十五日發行）

廓清
THE PURITY
大正九年二月
第十卷第二號



廓清時言

南洋出稼笑婦の驅逐

南洋に於ける我醜業婦の妄狀は、同地牧師梅森氏の詳細なる報告と共に島田會長の論評を昨年十一月號の本誌に掲げ、大に同地官民の反省を促す處ありしが、それがあらぬか、今般同地日本人會は蹶起して山崎總領事と共に、新嘉坡馬來半島に於ける我が出稼醜業婦を一掃するの計畫を立て、近く二千の醜業婦を送還せしむる筈なりといふ。

南洋は實に我が醜業婦の本場にして、東洋君子の國を目して醜業婦國たるの汚名に墮せしめしものは、主として同地方面に於ける彼等の跋扈の賜也。然るに同地官民の覺醒により漸く一掃せられんとするは賀す可し。たゞ怖る可きは二千人といふ醜業婦の大集團が歸還の後、如何に國內の風紀を紊すべきかにあり。聞くが如くんば同地日本人會は我が婦人矯風會に彼等の教養を懇請し來りたる由、尤も千萬の事也。多年海外醜業婦防止の爲めに健闘し來れる同會は、元より快然其任に當らんことを期す可しと雖も二千人の醜業婦教養の道は容易に得べからず。須らく富豪の義捐に待つ外なけんも、若し夫れ基金百六十萬と年利八萬圓を擁する愛國婦人會にして、立つて同胞救濟の爲め、婦人自衛の爲め、國家風教の爲め、而して國際的面目の爲めに努力を惜しますんば、彼等の教養授產の道は、比較的容易に解決せられん。

賜杯廢止の勅令下る

全米禁酒てふ一大警鐘は世界各地の曉を破つて、醉步蹣跚の我國民にも

勘からざる覺醒を促し、紀元節に於ける禁酒聯合會の大運動も頗る振ひ、議會に於ける幼年禁酒法も從來の如き根本氏の拜み倒しに餘儀なくせられたる、不眞面目不謹愼なる採擇乃至通過に非ずして、眞實なる社會問題として取扱はるゝの傾向を生じ來りたるが、一月二十九日勅令を以て社會公共事業に對する寄附者表彰改正の件及び金銀木杯下賜廢止の件を公布さる。國民たるもの須らく顧る處なくして可ならんや。

品川遊廓を廢止せよ

東京府に於ける京濱國道改修に際し、品川三業組合は之を機とし、現在四十餘軒の貸座敷を遊廓とすべく運動中の由にて、町民は擧つて是に反對し、同町は純然たる商業地にして、貸座敷は從來の關係上存在する迄の事なるに、此度廓となれば自然南北に貫通する舊國道の兩端に大門が出來、荷揚場倉庫等の建並ぶ目黑川は役に立たぬ事となり。廓內になる商家は立行かぬ事とならん。殊に同町は畏くも先帝東幸の砌の行在所あり、此史蹟を瀆さんは町の面目に關すとて、同地埋立地に移轉せしめんとを代表者當局に陳情したりといふ。何既に斯の如んば進んで同地貸座敷を廢止するに如かず。何の躊躇か要とせん、若し廢業を肯ぜざる貸座敷業者に對しては吉原洲崎等の地區內に移轉せしむるも不可なし。斯くして東海道の關門を淸掃し。健全なる商業の發達を庶幾すべし。

戰慄すべき花柳病傳播業

大阪市囑託島村ドクトルは、同地難波病院に於て研究を遂げ、左の如き事實を發表したり。

大正二年の在大阪娼妓百人に對する花柳病患者は二十一人九分、同三年は二十五人一分、同四年は二十四人四分、同五年は二十四人三分、同六年は二十五人六分である。大阪では五日毎に娼妓の檢診をなしてゐるから、檢診百人に對する發病患者二十五人六分は、前回の檢診の直後に發病したものと、檢診の直前に發病したものとあるから、之を平均すれば發病娼妓は發病の儘五日の二分の一なる二日半客を取つたことゝなる。是に依つて計算して見ると二十五人五分が二日半、即ち一檢診期間には一日平均三人三分の客として二百十一人の客に發病の儘接し。てある。一箇月には六回の檢診があるから、此計算よりすれば市の内外七千の娼妓が一ヶ月に發病の儘接する客の數は八萬八千六百二十人、一箇年には百六萬三千四百四十名と云ふ莫大な數となる。即ち大阪七千の娼妓は一箇年に於て、此の百六萬三千餘人に病毒傳染の機會を作つてゐるのである。現在難波病院には常に七百名の患者が收容されてゐる、恐らく是れは收容患者數から見て全國最大の病院であるかも知れない。以上の統計から見ると如何に花柳病の撲滅を計つても事實は却つて年々增加の狀態にあることはトラホームと同一轍の現狀にある。と。

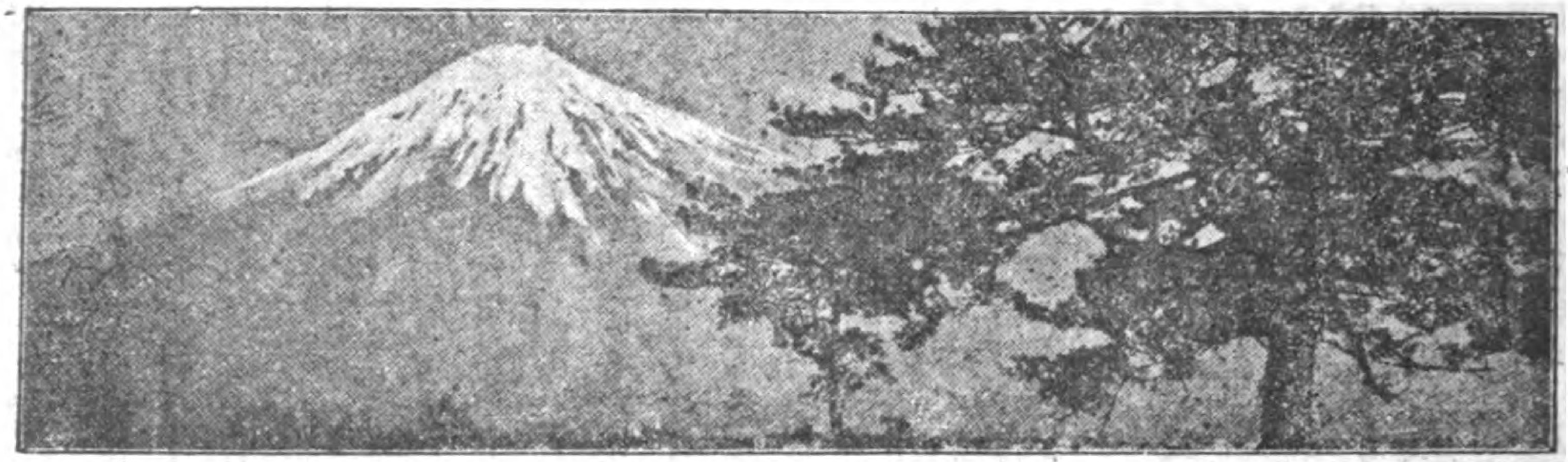
此計算を假りに此儘全國の娼妓に應用し得るとすれば、五萬の娼妓は一ヶ年に七百六十三萬人に病毒を傳播しつゝある譯なり。戰慄すべき營業もあるもの哉。

花柳病傳染の男子に賠償

最近京都市柳川某は、岩田某女に淋毒を感染せしめて之を離緣したるより、肉體上精神上の損害賠償を提起して、勝訴となりたるより、男は感染せしめたる事なしとて大阪控訴院に控訴したりしが、審理の結果左の如き判決を下したり。

控訴人が大正六年二月二十五日婚姻儀式當日尚淋毒を有し、爾後數日中被控訴人に感染せしめ、その結果前記疾病を發するに至らしめたることを認むるに足れり、又右同棲中に於ける被控訴人の疾疾が其前に發したるものなることを認むるに足らず、爾餘の各證據も亦前記認定を覆ふに足らず、而して淋毒を有する男子が婦女と關係する時は、淋毒をその婦女に感染せしむべきこと、通常人の注意を以て豫見し得べき所なれば、淋毒を有する控訴人が、被控訴人と關係し、之に淋毒を感染せしめ疾病に罹らしめたるは、即ち故意又は過失に因り被控訴人の身體を害したるものにして、之に因る損害を賠償すべき義務あり。云々。

婦人の幸福を進むる新しき判例として歡迎すべし。（江南）



無理想の政治

廓清會長 島田三郎

□戰時日本の世界的地位

我國の狀態は目前且つ表面に於ては極めて無事である。然るに厄運迫り來つて危殆の狀態にありと云はゞ、好んで詭言を弄し妄りに不祥を談ずる如く思ふ者もあらう。併し乍ら靜座默考するに、決して希望に滿ちた時代でもなければ人心安く國運昌んなりとの言葉を以て評することも出來まい。若し信ぜずして徒に私の評言に反對する者あらば、それは自ら欺き人を欺く諂諛に過ぎぬ。一言にして云へば我國は、外、列國の間に孤立して、内、寸前暗黑上下疑惧に滿てる時代である。

世界の大戰に先立つて諸國が軍備を競ふや、我國も亦其例に洩れず兵力を賴みて又日英同盟によりて東洋に重きをなした。戰爭一度起るや意を決して條約の義を蹈み、兵を山東の一角に出して、四ヶ月にして膠州灣を陷れた。歐洲の中央は兵火に惱んで東洋を顧る暇なく、列强は日本の援助を利益ありとし日本の行動に對して贊辭を呈した。此秋に方つて日本の軍艦は東南洋の波を靜め、地中海より大西洋に至るの船舶を擁護して相當の働きをした。更に諸國が軍事に勞して生産の暇なかりし爲め、日本の貨物は高價を以て支那印度南洋或は遠く西洋諸國の市場に賣れて、意外の利益を得ることになつたから、其外面に顯はるゝ形勢は、日本をして强く且つ富める國とならしめたのである。

戰爭中我は英佛諸國と獨逸を共同の敵として戰ひ又同時に和約を結ぶ可く、決して單獨の講和をしまいといふ倫敦條約によつて、日本は此等の諸國と對等の地位に立つたから、講和の時期に入つて英米佛伊と共に世界强國の待遇を受けて、所謂五大國の一に列した。

□驕者不久。羅馬西斑牙の歷史

此等の事歷を概觀すれば、日本は軍事に於て外交に於て又産業に於て、他の諸國と駢び馳せて着々

大國の列に立つべく見えた。何ぞ圖らん外觀に得て內實に失ふたものがある。思慮淺き國民は此外觀の成功に醉ふて驕慢の心を生じ、實行少くして所得多かりし爲め、極めて少數の識者を除いては、國運勃興して偉大の國となつた如く感じ、俄に物資に得た處の所謂成金者流が跋扈して驕奢に耽り、淫逸を恣にし、一時輸出過多の影響として物價は暴騰を來し、其結果貧富の懸隔は甚しくなつた。勤勞によつて確實の報酬を得た者は、是に依つて福利を受けるが、他力によつて偶然に受ける富は、個人として其禍を受くるを常とする如く、一時俗眼を眩惑する國民の暴富は、却つて不幸を招くの結果を得べきは、個人の場合と同一の危險がある。

古今の史乘に考ふるに羅馬は兵力によつて四隣を侵略し、他人の勤勞によつて贏ち得たる富を本國に運び入れて驕奢に耽る一種の階級が起り、勤勞を厭ふ風が生じて其結果、始めに勇敢なりし國民は隋弱となり、國を守るべき兵役を厭ふの傾向を起し、得たる富を以て傭兵を用ふるに至つた。平和の勤勞も亦奴隸に依賴して殖產は奴隸の手に落ちた。人驕り兵弱くして北方の蠻民に蹂躙せられ遂に衰亡を招くに至つたのである。西班牙の歷史も亦同一であつて、一時の强榮に乘じて新地を發見し宏大の土地を西半球に得て、他人が多年作り上げた富を本國に運び、新に礦山を發見して金銀を國土に集め、驕奢に募り秕政を重ね、一度躓いて又振はず、最强國の列より微弱の伍班に墜落したのである。

吾人は我國を以て直に此二國に比するには非るも、勞せずして得たる富と兵力によりて得たる强とは、文化と相伴はずして往々盛衰地を轉ずることは、般の鑑として自ら深く誡めなければならぬ。

□戰後日本の形勢一變す

巴里に於ける平和會議の顚末は、我國民をして失望せしめた。我全權委員自身も自ら顧みて深く思ひ至るであらうが、流石に其失敗を自ら明言するに忍びないものがあらう。彼地に在つて其眞相を視察して歸國せる者は、其位置の如何に不拘、皆意氣沮喪してゐる。中に就きて通信報告の任務を帶びた新聞記者諸氏は、憤慨の情を筆端に洩さゞるはない。我文化の低くして樽俎折衝の間には歐洲の小國の使節にすら及ばざる有樣で、南米諸國隣邦支那の委員にすら後れを取つたのは事實である。其結果は今日に於て着々實現し來つて、基礎既に確定して何の問題もなかるべき筈の青島租借地の問題すら今に決定せずして、同租借地に居住する我商賈は不安の念を抱き、國民は等しく其結果を憂懼しつゝあるに、當局は前途の如何を國民に告ぐるだけの自信だにない。此問題は單に山東一角地の問題に非ずして、是非共親善でなくてならない日支兩國間の交際を危險ならしむる問題として殘つてゐる。十餘年間外面に無事を裝ふて併合統一の治績を擧げたるが如く吹聽して居つた朝鮮は、昨年三月の所謂獨立運動以來不定の有樣であつて、前途尙不測の狀態であり、其政策は全く自信を缺いてゐる。呂運亨の問題と云ひ、鮮人が西比利に走つて半島の鮮人と呼應して種々の詭謀を計畫しつゝありと風說せらるゝも、單に風說のみではあるまい。現に西比利出兵間

題に關聯して、鮮人が此方面に在りて、露國人と共同して爲す處あらんとするが故に、當局はチェックスローバックを救ふと宣言せられたる出兵も、朝鮮と關聯するが爲めに引揚げることを躊躇すると當局は說明してゐる。

我日本は歐洲諸國の多事の間一時東洋方面に勢力を伸べた如く見えたが、平和の時期に入つて十年以前併合した朝鮮の領土すら動搖し來り、歐洲產業の東洋に出貨せざる際に乘じて支那に賣込んだ市場は、一轉して各地に排貨の運動に惱まされて居る。戰爭の間に日本の海軍に感謝した英領加奈陀の人も濠洲の人も新西蘭の人も皆日本を疎外するに至つて、其同情は去らんとしつゝある。殊に米國に至ては日本を以て過つて獨逸の遺風を存してゐる唯一の軍國であるが如く評して我が外交官は之を說明して其惑ひを解くだけの技倆がない。而も大勢を看破する眼識なき軍人は、此等の形勢から國防に力を入れて、世界の大勢に反する近眼の計畫に汲々として居る。

□日英同盟より國際聯盟へ

露骨に云へば日本は外交に於て孤立して居る。大戰以前に於ては、日英同盟が東洋に於ける有力の關係であつた。遡つて其事實を云へば、露國が獨逸に敎唆せられて東洋に力を伸べんとしたから、英國は露國が印度を窺ふを恐れ、日本亦露人が滿洲に迫るを憂へたので、日英共同の敵として露國に備へる爲め同盟の必要を感じた。英國は海軍を以て日本を援けんとし、日本は陸軍を以て力を印度方面に貸さんとしたから、英吉利は此條約を重視した。然るに今回の大戰によつて獨露とも彼が如き形勢になつたから、日英同盟は其締結の原因たるべき力を失ふたのである。

代つて起つたのは其範圍更に廣き、世界的の聯盟が成立したことである。此聯盟は多年理想家の胸中に沸いて、議論として唱へられたものが戰爭の慘禍を大戰に實驗して、平和を希望する念が高まつたから、理想は遂に事實として現はれたのである。我等は此實現を心から歡迎するものである。乍併戰前迄力即權利なりとの獨逸思想が勢力を有つて居つたのて、それが一轉して道理即權利との思想に移つたにせよ、一擧にして完全なる聯盟が成立つ能はざるは止むを得ないであらう。けれ共兎に角聯盟の成立は一大進步であるから、此聯盟を基礎として其足らざるを補ひ、其缺けたるを足して忠實に是を完成せしめたいのである。此の希望は佛國のブールヂヨア氏が明言して居る。英國のグレー卿も、此の聯盟の有效なると否とは加盟した國民が忠實に其目的を達しやうといふ努力に待たねばならぬといふてゐる。ウキルソン氏も亦元より同一の意見である。

我日本は此進運に際して從來の獨逸思想に醉ふたる迷ひより脫出して、內は文化を進め民心を安んじ、外は此大勢に應じて新紀元を列國の間に開かねばならぬ。此方針こそは、國運を開いて世界の列國と競爭する東洋の文明國となり得る唯一の大道である。我々の切に憂慮する處は、目前の安に馴れ過去の形式に囚はれて、此の進運に乘ずる機會を失ふことなきやにある。

□西比利出兵の無理想不信義

現在に於て我外交の拙劣が、意外の疑惧を諸國に與へてゐるのは蔽ふ可からざる事實である。而して是を辯解するの能力を缺くも亦事實である。その明白なる例を擧げんに、西比利出兵は米國の主唱して我國に申込んだのである。同數の兵を出すのを基礎として協商が成立した。信義の何物をも解せざる當局は、我國の軍隊組織は米國の七千といふ定義に合致しない故といふ曖昧の申條で、七萬の大兵を出したのである。同時に支那を敵國に對する防禦の必要ありとの理由により て、日支の共同防禦の條約を結んだ。我等の聞く處によれば、當時駐米の石井大使は此の出兵の數を略同數と理解した樣である。我外交は外務省の單一なる外交に非ずして、如斯問題は參謀本部が外交の領分を犯すのが厭ふ可き慣習であるから、此の兵數は肝腎の在米大使が知らずして着々實行されたやうてある。故に米國の外務當局は此兵數の事を石井大使に問ふたらば、石井大使は元の約束通りの數だと自ら信じて答へたらしい。然るに出兵した日英米の軍隊相接するに及んて、日本の兵數の意外に多きに驚いたのである。

されば米人の或者は、歐洲多事の機會に乘じて日本は意外の欲望を露領に抱いてゐると推考した。支那と締結した日本か支那兵を日本の命令の下に活動せしむることは、恰も獨逸の軍人が土耳古兵を指揮する如き結果になるてあらうとの猜疑の念を生じた。我國が斯の如き兵を出したのは、何の理由があるか。我々は種々の推定を有するが玆には明言を避けやう。たゞ斯かる猜疑心を生ぜしめたるは、日米協商の約に違ふた多數の出兵と、急遽日支國防條約の成立にあるは勿論てある。日本を以て野心ありとする米人の推定も當然と見ねばならぬ。斯くして日本に對する米人の心理狀態は段々不透明となつた。轉じて支那人が巴里の講和會議に米人を動かすの一大原因となつたのてある。今日日米の間に暗雲の低迷するは、斯の如き無理想不信義の産める結晶に外ならぬ。

□軍事當局の鼻息を窺ふ政治

歐洲諸國の對露政策は時を逐ふて變化し、露國の內情も同樣に當初の狀態とは變つて來た。英相ロイドヂョーヂ氏は或形式の下に露國に對する通商を開かんとする口氣を洩らして居る。英吉利に於ける第四階級は露國に出兵するを拒んて居り、歐洲大陸の諸國は露西亞の農産物を採るに非ざれば其食料の缺乏を補ふことが出來ぬと叫んてゐる。急遽起つたる露國の革命は、當初に於て過激至極てあつたが、次第に緩和して有限の所有權を各人に許さうと迄變化したから、恰も百年以前に於ける佛國の革命に、當初其貴族等が諸國に訴へた事情と內部が變つて、年を經て遂に調和が成立つた如き形勢に推移するかも知れぬ。何にしても歐洲諸國が兵力を以て露國を包圍しやうとの、絕望の擧てあることを自覺する時期に移つた。

然るに我西比利出兵は依然として一定の目的もなく、自信なき政治家は行掛りの軍事當局者の鼻息を覗ふて斷然たる處置をせず、言を左右に托して無益有害の兵を西比利の曠野に

駐屯せしめて、我忠勇なる軍人の血を流さしめつゝあるのは眞に慨歎の至りである。

□過激思想は内因なくして傳播せず

迷へる者は過激思想の衍蔓恐る可きであるから、遠き歐洲諸國とは違つて殆んど露國と接壤の關係ある日本は、兵を引揚ぐることは出來ないのであるといふが、是等の連中は兵を以て過激思想を防がんとする無理解の沒分曉漢である。過激思想は外より來るに非ずして、內に原因があれば燃ゆるのである。無形の思想は有形の兵力で區劃して防ぐことは出來ない。過激思想の露國に勢力を得た原因は何であるか、富の分配の極度の不平均が根底の病である。貧富の懸隔の甚しきことが其原因である。富める者は放縱驕慢で、貧しき者は必要の生活費を得ぬのが過激思想を傳播せしめたのである。可燃質の火藥は、マッチ一本でも爆發せしめ得るが、泥土は燃えず岩石も燃えない。是と同一で社會政策經濟經營其宜敷を得て、人々其堵に安んじ、生活に苦痛を感ぜしめぬ社會には過激思想は發生せぬ。從つて傳播すべき原因はないのである。

我々は過激思想が西比利より海を渡つて我に闖入するとは思はぬが、現在の財政經濟政策は、少數の投機家流と墮落せる政黨者流と聯合し又沒分曉漢の資本家をして其富を壟斷せしめ、其富を膨大ならしめ、多數の人は生活を脅威せられて、止まる處を知らぬ有樣である。斯くの如くにして底止する處なくんば過激思想は外來傳播のものに非ずして、內部醸發のものとならん。若しそれ此虎の如き過激思想が西比利の曠野より渡來せずして、我が繁榮なる都會の第四階級と智識階級の胸中に醞釀せらるゝならば奈何。

今日の形勢は、外に於て孤立せんとし內に於て不安ならんとしてゐるから、之を避くるの道は他なし、憲法的に治療を施すのである。國民の各階級の代表者を議會に送つて、階級制度の舊思想を清掃し、貧富懸隔の大弊を洗ひ去つて、人心を安んずるにある。外に向つては國際聯盟を完成すべき忠實なる一聯盟國となるのが、凡ての猜疑を解くの手段である。支那に對しては輕侮の念を去る可し。朝鮮に對しては合併當初の大詔を遵奉して、公平なる政治を施し、政治的に之を訓練して自治の機關を備へしむるにある。要するに理想ある政治を內外に施して其日稼ぎの無責任なる政治を絕たねばならぬ。此點に於て國民の自覺を必要とし、且つ之を導く識者の活動が第一要件である。

現代の勞働問題（五）

廓淸會副會長
早稻田大學敎授　安部磯雄

□純益分配と勞働問題

前號に於て述べた處のストライキの話から推して考へれば固々資本家と勞働者とは其間に於ける利害關係が既に相異つてゐるのであるから、何うしても兩者の衝突といふ事は避け得られない傾きがあるのは謂ふ迄も無い事であると思ふ。資本家が富の勢力に依つて勞働者に望む場合、勞働者はそれに對抗する手段方法として團體を組織し、大なる勇氣と覺悟と決心とを以つて是れに應じなければならない。團體を作るといふ事は、此意味から考へて觀ても、國家に於ける戰鬪準備のやうな形ちであつて、團體が大きくなればなる程、勞働者の勢力が益々鞏固になつて行く譯である。

併し乍ら飜つて深く考へれば、勞働問題としての立場から云つても、斯くの如き戰鬪準備を怠りなく整へて一朝事あればといふやうな態度で日常の事業に從事するといふやうな事は面白くない事であつて、現代に於ける勞働問題を資本家と勞働者とが相爭ふが如き不利益な狀態に置くのは甚だ面白くない事であるから、出來得る事なれば何うにかして兩者の衝突を未然に防ぎ、共に圓滿なる態度を持するといふやうな事に幾多の識者が苦心を爲しつゝあるのも尤もなことゝ謂はねばならぬ。

戰爭は謂ふ迄もなく極めて甚大な害毒を人類社會に流すけれども、是を經濟的立場から觀れば其戰爭も又資本家と勞働者との兩者の爭も共に同じ事であつて、其間に經濟上の利得を得るといふやうな事は認められないのである。斯る意味に於て私は此二つの階級間に戰爭が起らぬやうに力めたいと思ふのであるが、それには何が最も其方法手段として適するであらうか。私は嘗つて歐洲の或一部に於て實行せられ、又今日歐米各國に於ける唯一の解決方法として研究せられつゝある純益の分配問題の奈何が極めて効を奏する事と考へてゐる。若し此純益分配といふ事が完全に行はれるならば、確に兩階級間の衝突を和げる事が出來、又幸に避け得る事が能るかも知れないのである。て私は今茲に其問題の大體を說述して讀者諸君の一考に供したいと思ふ。

□勞働者に帳簿を公開すべし

從來遣り來つた兩者の關係といふものを考へて見ると、資本家は勞働者に對して約束通の賃銀さへ支拂へば、それで剩

りの全部は是れを取つても差支が無いといふ事になつてゐる。だから利益の莫大なる會社では、手當と稱し賞與と稱へて其利益を分配しつゝあるやうであるが、私のいふ純益分配といふ事は、資本家が勝手に取極めて分配するやうな意味のものではなくて、寧ろ純益分配は一つの約束と見做すのである。會社であれば定款の中に其の條項を書加へて、純益は斯樣〳〵の割合を以つて資本家と勞働者とが是れを分配するといふ契約を成立せしめる。それが勞働者者側からの權利として要求する事が出來れば兩者の間が非常に圓滿に行くのである。純益の説明は必要がない。千差萬別殆ど何れの會社も勝手であつて、一定して居らぬ事になるが、要するに分配をする事にすればよいのであつて、それも帳簿を祕密にするやうでは駄目である。會社が帳簿を開放して勞働者の閲覽を自由にし、從來のやうに資本家が口先許りで勞働者を取扱ふやうな事でなしに、僞りのない眞面目な報告を勞働者に知らしめるといふ事であれば、勞働者の立場から考へて見るも其純益の多寡如何に拘はらず。必ず氣持ちの良い事に違ひない。從來の爲し來りを見ると、依然祕密外交のやうな態度で、資本家が幾何の純益を得て居るのか、其處に働いてゐる勞働者は全く知らないといふやうな狀態で、我國の外交のやうに全部祕密主義に遣つてゐるから、從つて其處に同情といふものが無いのである。然るに純益分配に當つて帳簿を開示して、今期の純益は是々であるといふ事を知らしめるやうにすれば、假へ金高は少くとも、それば勞働者が理解して、其處に眞の同情といふものが起つて、是れは自分の事業であるといふやうな考へが湧いて來るから、何でも會社の爲めにといふ處から器械や原料等を亂暴に取扱つたり、又は粗末にするやうな事がなくなるのである。そして會社の純益といふ事に細心の留意を拂ふから、無論監督といふやうな冗員が必要なくなる。自分で働けば、働くだけ自分の純益といふものが多くなるのであるから、決して怠慢な從業などをするやうな事がある可き筈がなく、常に氣持宜く愉快に仕事に從事して寧ろ勞働といふ事が樂しみになつて來る筈であると思ふ。

□彼我の溫情主義の相異

我國に於ても政府などが然う遣つた方が宜いとは云ふが、いざとなつたらそれは却々至難な事に違ひない。第一大抵の資本家は自分達の遣つてゐる事業の內部迄をも勞働者に知らしめるといふ事は、何となく威嚴を損するやうな事に思ふ者が多いのは爭はれぬ事實であつて、所謂官僚的の思想を懷いてゐる資本家が多いから、我國に於ては言ふ可くして行はれざる事に屬する。熟慮して觀れば實際此方法は大切な事であつて、デモクラテックにもなれば、祕密といふものがなくなるから、從つて勞働者の從業態度が一變して來るが爲に、當然資本家と勞働者の衝突がなくなる。兩者の衝突は啻に金許りの問題から惹起するのではないから、所謂資本家橫暴といふ祕密主義を取除く事は極めて肝要な事と思ふ。若し左もなくば勞働者は非常に氣持ちが惡い許りでなく、奴隷取扱のやうな資本家の仕打が癪に觸つて遂に兩者の衝突が惹起されるに至るのである。返す〴〵も少くとも帳簿を公開するといふ事

は、勞働者の氣持ちを宜くする上に大なる意義がある事を忘れてはならぬ。

現在我國に於ける資本家のやうな方法と手段とを採つて事業を遣るなれば、必ず大なる利益といふものを得らるゝのは當然であつて、假令へば溫情主義といふやうな、萬國勞働會議に我國の代表者の一人として出席した彼の武藤三治氏の謂はるゝ如きものと亞米利加に行はれてゐる溫情主義とは其間に大なる差がある。彼國に於ける溫情主義は、眞のデモクラシーから出發してゐるものであるから、それと同樣なものなら非常に都合の宜い事であつて無論ストライキ抔は起らないから寧ろ歡迎す可きである。其大要を述べて觀ると、亞米利加ては資本家が自分達の子供も、勞働者の子供と一緒に同じ學校に通學させて居る。小學校に於ける教場も又娛樂方面も共に同じてある。話も時折は會食も共にする。斯樣に學校は勿論の事、社會生活になつても常に交際を繁くして居るのてあるから、溫情主義として何處迄も徹底してゐるのてある。斯くの如き徹底せる溫情主義を果して武藤氏は實行せられつゝあるのてあらうか。

□官僚的に立脚せる溫情主義

獨り武藤氏許りてはない。我國に於ける資本家の大部分は矢張り口に溫情主義を唱へながら、其實眞に覺醒して居らぬ者が多いといふ事は實際てあつて、亞米利加のやうに徹底的に實行し得る迄には悲しい哉前途は遼遠てあらうと思ふ。如何に家庭的關係の樣に遣らうとしても、其根底が既に官僚的てあつては到底溫情主義の效果を擧げ得る事は至難である。凡ての組織を官僚主義にして措いて、それて溫情主義を採らうとするやうな武藤氏も實は極めて皮相的てあるが、眞實何處迄も溫情主義に依つて遂行しやうとするならば、先づ第一番に帳簿を公開して飽く迄も從來の祕密主義を排さなくてはならない。其處に至つて眞の溫情主義が實行せられる事になるのてあつて、是れを家庭に於ては一家の凡ての事が妻も子供も知られるやうに、主人許りが知つて他の者は誰も知らないといふやうな事てなしに、一家の財産の一錢又は一厘の金高てさへも妻子が知つてゐるといふ事てあれば、夫が不品行を爲す場合直ぐに判るといふ其處まで公開しなければならぬ。是れが溫情主義を唱へる資本家に爲し得るか何うか、若しそれさへ實行不可能といふ事てあれば、それは既に溫情主義が徹底しない證據てある。我國に於ける大多數の資本家が小使錢を祕密にしてゐる間は、決して溫情主義を認める事は出來ないのてあつて、それをも爲し得ずして帳簿を公開とするといふやうな事は望み得られない事てはあるが、要するに事業の損益を證明する處の帳簿を公開する事も爲し能はずして、溫情主義に依つて勞働者を働かせやうとする事は何うしても僞の譏を免る事が出來ないと思ふのてある。

□勞働者を愉快に働かせよ

純益の分配に就て最う一步進むて行かなければならぬのは是れは佛蘭西が抑もの本場てあるが、分配した多くのものは金錢許りてはなくて種々な方法と手段を採用したのてある。

一例を擧げれば勞働者の賃銀が或高になると、なる可く其會社の株を持たせる方針を採つて居る。其處まで行かなければ眞の勞資協調は出來ぬと私は考へてゐる。勞働者も其心掛一つで資本家と爲り得るのであるから、政治の上から考へても參政權を得られるといふ事は、當然立憲的となつて專制から立憲になるのである。然うなれば無論ストライキ抔は起る筈がない。資本家と勞働者はお互に其會社の株を持つてゐるのであるかち、會社の損失は直接自分達の損失といふ事になるから、ストライキ抔は起したくも起されなくなるのである。

我國に於ても將來此儘祕密主義を固持して開放する事がないならば、ストライキを避ける事は出來やう筈がないのは明な事である。私は此狀態を非常に寒心して居るから、今茲に佛蘭西の或る偉い人がゐて、そして偉い事を遣つてゐるといふ事を述べて、我國の資本家に反省を乞ひたいと思ふ。

□眞の理想的勞資協調策

それは佛蘭西のゴダンといふ人であるが、其人は鐵器製作工場、(暖爐、鍋の如き日用家具類)の持主で、事務員と職工とで合計千七百人を使つてゐるが、工場の外に寄宿舍を設けて極めて安價に寄宿せしむる外、幼稚園や劇場等の設備も整つてゐるといふ樣な、勞働者の爲めにあらゆる機關を設けて出來る得る丈け株を持たせて遣らうと努めたのである。而して其目的が非常に面白い。勞働者に漸次株を賣つて自分は工場を退いて工場の全部を勞働者の所有に歸せしめるやうに計つた。て、其の憲法に定めた處を觀ると、勞働者が年を老ひて工場を退く時には其株を新しい人に賣つて退かなければならないといふ事になつてゐる。畢竟工場外の人は其工場の株は一切持たせないといふ原則であるといふ、之などは大に學ばなければならない事であると思ふ。其處まで行けば溫情主義も徹底するのであつて、現在に於ける勞働問題も解決する方法に依つては極めて容易な事であると思ふ。卽ち資本家が五十萬なり百萬なりの事業を起して、それを二三十年の間に勞働者に賣つて退き、工場を勞働者に持たせるといふことにすれば實に面白い事と思ふ。啻に勞働問題としての立場から好效果を齎す事が出來る許りでなく、溫情主義より觀ても多大の效果が擧げらるゝに相違ない。私は此の意味に於ける分配は勞働者に株を持たせる事を何よりであると信じてゐるが、今直にゴダンの如き方法が我國の資本家に要求する者ではないが、其處迄遣れば當然資本家と勞働者との爭ひは是れを避け得るに違ひないと信ずるのである。(續く)

◎比律賓も禁酒乎

米國の禁酒制度は今や全州に亘りて勵行され、成績見る可きものあるより、近く之を比律賓群島まで及ぼさんとする運動あり、右禁酒の動機は女宣敎師の主張に成れるものにて、飮酒の結果婦人の貞操を安價にて提供し又は男子に蹂躙さるゝ機會多きは全く飮酒の爲めなりとて、各種の宣傳を行ひ結局兩院を動かして可決したるものにして、成程此種類の婦人に關する犯罪は著しく減退したりと。

又、桑港に在る多數のカフエーは、禁酒令發布以來何れも閉鎖され、多數の女給仕は英國其他の非禁酒國に渡り、同樣カフエーに入るもの多く、爲めに夜の街は火の消えたるが如き有樣なりと。

男女の性に於ける必然及自由（二）

一條忠衛

四　男女の精神的個性

前節の如く、男女の身體的個性には必然性もあつたが、精神によつてこれを支配し得る自由性もあつた。必然性は實に自然の因果律に由來するものであつたが、自由性はこの必然性をして不自然の傾向に變移せしめるか、若くはその本來の特徵をして發展せしめる機能であつた。斯くして男女の身體的個性は自由によつてその必然を擁護し、放肆によつてこれを破壞する性質のものであつた。然るに男女の精神的個性に至つては多少意味を異にして居る。その上に此の精神的個性は精神的活動の種類によつて意味を異にして居る。認識上に於ける男女の精神的個性と、實驗心理上に於ける男女の精神的個性と、倫理上に於ける男女の精神的個性とは、各のその意味を異にして居る。

（一）認識上に於ける性的差異の有無

吾々が萬有の實在を意識して、その意味を知り、價値を探り、規範を律し得るのは、認識の結果に由るのである。自然科學的世界に於ても、規範學的世界に於ても、意識現象の對象なるものは自己の統一作用によつて認識されるのである。是が先驗的統一又は純粹統覺、意識一般と稱せられるものであつて、何等の內容的規定を有せぬ純粹の主觀、絕對の主觀による一の極限概念である。認識の內容なるものは斯かる主觀に對して認識せられたものとして客觀となるのであるから、その極限概念が自己を普遍者として特殊の上に發展した內面的必然である。けれども、この極限概念としての普遍者は感覺の世界の上に經驗として知らるゝのでは無く、感覺の世界から思惟の作用に移り、吾々の意識內に活動することによつて知らるゝのである。卽ち認識の起原には本體の世界があるのでは無く、意味の世界、價値の世界がある。意識現象は意味の因果律によつて起り、價値の必然によつて起るのである。そして、斯の如き因果の形式は自己の主觀に於ては、意志の因果律に屬するものである。この意味に於て、意識は意志の形に始まつて感覺の世界に入るのであつて、理想より現實への直接の推移である。これが意識に於ける意志的統一の必然であつて、また道德的當爲の必然である。斯くして道德的規範は成立するのであつて、理想の世界より現實の世界に移る自由の作用であり、意志自由の可能なる所以である。これが吾々の意識に於ける認識作用の根本的特徵である。

さて斯樣な哲學上の認識は吾々の意識に於ける普遍的妥當性の存在するによつて成立するので、自ら超心理的、超論理的な意義を有するものであるから、自己の悟性に於ける思惟の範疇である。それて、この人間の認識には男女の性別と云ふものが無いのであつて、意識の作用に於ても、價値の意味に於ても、當爲の絶對性に於ても、意志の因果律や自由律に於ても、男女の差異によつて論理の形式を異にすることが無いのである。男女の先驗的な純粹統覺に於ては、同一にして共通なる意識一般を有するのみで、精神的個性の區別が無い、これは認識の原理が根本的生活の統一的範疇であるからして、同一にして共通たることを必要とするに基因するものである。男女に存する特殊的な經驗的な客觀的個性は、その中心に於て統一された主觀的個性の普遍概念に於て一個の價値として直觀體驗されて始めて男女の生活に意義を生ずるのであつて、現實界に於ける兩性の差別的有限的相對的の生活は可能界に於ける男女の無差別的無限的絶對的の生活と相交涉して始めて、同一の人生を體得することが出來るのである。この意味からして、男女は機會均等の地位にあつて、その共通の普遍的妥當性によつて宇宙の萬有を認識することが出來るので、意味の世界や可能の世界を旅行する上に於て、性によつて待遇を異にされる理由が無いのである。意識一般は男女をして機會均等に價値を與へ、當爲に對する自由者と爲したのである。男女は共にこれを自己の人格に於ける精神的個性の根本的原理として奉遵することを得る、絶對の獨尊者として存在して居る。それて一部の論者の言ふが如くに、男子は抽象的思想に於て特徵を有するから哲學者となるに適し、女子は具體的思想に於て特徵を有するから小說家となるに適して居ると云ふが如きは、一顧の價も無い愚論である。これは男子が自己の專制によつて認識の普遍的妥當性を獨占して、女子に哲學の修養を禁じ、萬有の實相を悟得することを許さぬ妄擧であり、無知の放言である。

（二）實驗心理上に於ける性の必然及び自由

上述の如く意識に於ける認識作用に於て、論理の直觀的形式の上には性の差異は無いけれども、これが直接經驗に於ける客觀的心理となつた場合には果して何うか。男女の心理を實驗的に考察して見たならば、其處に性の差異と云ふものは無いか。客觀心理學に於ける意識なるものは、絶對意志の對象界と自然科學的世界との接觸點であるから、男女の心理には或る必然的なる因果律の作用は無いか。

先づ知識の方面から考察して見るに、男子の知力と女子の知力との間には本質的な必然的個性があるか。これに對する傳統的意見に依れば、兩者は全く異るものとされて居る。女子の知力は男子の知力に劣るものであつて、腦の重量及び統計の證明する所であると解されて居た。男子は理性によつて判斷し、女子は好惡の直觀によつて判斷し、男子の理解力は遲いけれども正確であるに反し、女子の理解力は早いけれども淺薄であると爲され、男子の思索は粗笨であるけれども組織的であるに反し、女子の思索は細密であるけれども斷片的であると說かれた。けれども、今日の實驗心理學によれば男女に於ける此等の差異はその分量に於て極めて少なく、且

つ漠然たるものであつて確實性が無く、男性間若くは女性間に於ける個人的差異の極めて大なるもの丶存するに比較すれば、殆ど論ずるの價値の無いものに斷定されて居る。知覺の速度とその確實性、聯想上の統一、有意運動の速度、心的疲勞の緩急、其の他の統計も男女の本質的個性を雲泥の差に區別するやうな必然性は何處にも見出し得ないのである。女子の高等教育の結果は知識に對して男子と同一の能力を有することを事實の上に立證するのみであつて、女子は如何なる知的作業に對しても男子と同樣に從事し得る能力者である。隨つて知識に對する選擇上の趣味とその實力との上に於ては、男性間又は女性間に於て個人的に大なる變化的徑庭がある如くに、男女兩性の上にはその變化的徑庭が無いのである。數學を好む男子と文學を好む男子との趣味的相違性の如くに大なる變化は、數學を好む男女の間にも文學を好む男女の間にも、之れを發見することが難いのである。然るに古來の傳習的意見に依れば、男性は相互の間に知識の極端なる差別を有しながら、女性に對しては絶對にこれを同質のものに見做したのである。その結果として男女の間には知識的作業の區別を生じ、精神的勞働の上に男女の性別を附したのである。男子は學術の研究又は社會的活動の知識に關する能力者であるけれども、女子は料理、洗濯、育兒、裁縫、家事の知識に關する能力者であると決定されたのである。併し乍ら、此等は男女の因襲的生活に由來する傳統的意見たるに止まるのみて、解答の基礎となるべき實驗心理上の確證が無いのである。從つて男女の知識なるものには必然的な個性の差異が認め難いのであつて、單に自由によつてこれを無限に啓發し追求し得るのみである。科學上に於ても、政治上に於ても、經濟上に於ても、有らゆる知識に於て、男女はその個人的趣味によつてこれを修得し能ふのである。人類の文化は實に知識の進歩に由來して居る。そして人類の生命と社會とは、男女の性的分業によつて繼續されるのである。それて男女は知識の開發に關しては、分業者の一人である。けれども、此の男女に於ける知識上の分業は必然的因果の特殊的規約では無くて、自由選擇上の分業である。男子として又は女子として、個人の自動的決定によつて試みられる知識上の分擔である。何等先天的に本質的な賦性として與へられた分業では無くて後天的に自ら作り求める分業である。この意味に於て、吾人の直接經驗に於ける知識は全く男女の精神的個性に於ては自由性に屬するものであつて、必然性に屬するものでは無い。古來より必然性と目せられたものも、實驗上の事實に照せば、女子のこれに對する解放的修養によつて、必然の範圍を撃退して自由の領域に換質し得るのである。

次に意志の方面を考察するに、傳統的意見によれば男女の間には非常なる差異を有し、そこに爭ふべからざる必然性があると解されて居る。先づ男女は大膽であるが女子は小心であり、男子は勇壯活潑であるが女子は溫良柔順であると說かれた。男子は飢寒、缺乏、疾痛、出血、睡眠不足、稀薄なる空氣等に對して耐ふる力が薄弱であるけれども、女子はその忍耐力が極めて强大であると說かれた。それから男子は淡泊であるけれども女子は執拗剛情であると爲され、男子は決斷

力に富むけれども女子は疑懼心に富み自衛の心を有して居ると爲された。それから欲望に於ては、兒童であれば男子は太刀や凧を望むに反して女子は人形や羽子板を望み、大人であれば男子は書籍や實用品を愛するに反して、女子は衣類や装飾品を愛すると説かれた。併し乍ら今日の實驗心理學上から觀察すれば、此等の傳統的意志には確實な證據が無いのである。發生學では精子が能動的であるに反して卵子が受動的であると云ふことが實驗されて居ても、それが性慾の本能に於て同一の傾向を有するのみてあつて、意志の上にさうした相對的な樣式に於て必然的となつて現はれるか何うかは、實驗心理學上の證明が無いのである。又た睾丸と卵巢に於ける內分泌の作用が男女の性の本質的原因であると云ふことが、新しい眞理として生理學上より提供されても、それが意志の上に如何なる樣式の必然性となつて出現するかは、如何なる心理學者と雖も斷定することが不可能なのである。動物試驗に於て、牡の睾丸を取つて牝に移殖し、牝の卵巢を取つて牡に移植すれば、身體の上に於ては反對の現象を呈することは事實の證明するところであるが、それが精神上に如何なる影響を與へ、意志に如何なる結果を來たすかは實驗することが出來ない。これを實驗するには、人間に試驗しなければならない。男子の睾丸を取つてこれを女子に移植し、女子の卵巢を取つてこれを男子に移植して、その精神上に影響したる結果を測定しなければならない。そしてこれを檢證する爲めに數十人の男女を犧牲に供さなければならない。そしてその結果として現はれたる眞理が傳統的意見と合致するならば、傳統的意見は眞理であると謂はねばならない。否らざる限りは傳統的意見に於ける男女の意志の差異なるものは、性に固有する必然性であるか何うかは斷定することが不可能である。僅に出血、疼痛、睡眠不足等に關する耐久力に於て、生理的事情からして男女の間に必然性を異にすることが證明されるのみてある。然るに傳統的意見に現はれる自餘の必然性なるものは、社會學又は道德史の見地より見れば疑もなく後天的な因襲的標準に由來したものであつて、自由性に屬して居ることが明かである。その一例を示せば、男天女地、男尊女卑、男剛女柔、男外女內と云ふ因襲的標準が、男子の性をして勇壯活潑のものと見做し、女子の性をして溫良柔順のものと見做したのである。けれども、男子の中には溫良柔順の者も多く、女子の中には反つて勇壯活潑の者も多い。これを以て見れば、その因襲的標準なるものは物理的な因果律では無くて人爲によつて規定された自律であつて、必然性として認容すべき性質のものでは無いと云ふことになる。

勿論意志なるものは男女を通じてその意識の根柢に於ては同一な認識論上の必然的規約を有することは前に述べた通りであるが、又た同時に自由の當爲性をも有して居ることも前に述べた通りである。けれども、上述の傳統的意見者の説に於ては、當初から男女の意志に必然的規があると假定して居るのであるから、先づ哲學上の誤解を有すると共に實驗心理上に於て觀察の粗漏に陷り獨斷に走つて居る。人間の意志は精神的生活に於ける中心的生命であつて、その自由は人格的生活の可能なる所以の唯一證明者である。自我は常に自由

の主體であり、理想的自我はこの自由によつて創造されるものである。大膽や小心の差別が無く、勇壯活潑や溫良柔順の差別が無く、淡泊や、執拗の差別が無く、苟もその理想を求めて進み非文化を斥けて向上するところに精神的生活の生命があるので、これは獨り意志の自由性によつてのみ成就されるのである。男女はこの意味に於て此の人生に在りて精神生活の自由者であつて、其處に何等先天的な規約がなく、本質的な個性を必然的に與へられて居ない者である。

次に感情及び本能に就いて考察して見るに、傳統的意見によれば先づ女子は男子よりも感情が強く、實に女子は感情の動物であると云ふのである。その感情が受動的であつて、多感多情であり、涙脆く、同情に富み、愛憎の念強く、怨恨嫉姑、羞恥、虛榮、貪婪の心に強く、男子の露骨なる感情に對して內祕的であつて外見の修飾に腐心し、表裏の生活を爲すと云ふのである。けれども、此等の感情的行動は一部の男子にも共通な事實であつて、且つ或る一部の女子には認めることが出來ない場合がある。感情的行動は男女を通じて各人の個人的性格に原因することが多い。けれども、現在の社會に於て男女の感情的行動に差異があつても、それは生得的な必然性であるか、獲得的な自由性であるか、今日の實驗心理學に於てはまだ證明されて居ないのである。男女がその感情的行動に於て因襲的標準を異にして居ても、それが必然性であるか自由性であるかは實驗心理學では斷定されて居ない。唯だ纔に性慾に關する感情に於て、男子の能動的なるに反して女子の受動的なる點に於て差異を有するのみである。私はこれ等に對しては既に拙著男女道德論に於て社會學と道德史の見地からして、男女の感情的行動の差異及びその因襲的標準は人類の習慣及び道德に由來したものであつて、自由性に屬するものと爲した。女子の多感多情は彼の女の天性では無くて、男子が勝手に作つた道德的標準によつて宿命的に束縛した結果である。女子の涙はこの男女不平等の社會的生活に由來するのである。僅かの不平にも涙が出き、僅の公平にも涙が出て、悲喜交々の生活を爲すのはその結果である。

殊に女子には身體の生理上よりして、月經、姙娠、産兒、哺乳等の必然的生活を伴ふのであるから、其等の物理的原因に支配される感覺神經の上に影響する場合には、その因襲的な道德的標準の上に現はれる女子の感情的行動は極めて多感多情の性を帶ぶのである。女子の月經中に於て感情の激し易く動搖し易いのは生理的原因に由來するけれども、これに對して油を注いで火炎の渦を起すものは後天的生活に於ける習慣及び道德上の自由性である。これは男子が神經衰弱や肺結核の病中に於て、感情が昂奮し易く動搖し易いのが生理的原因に由來すると異るところが無い。唯だ女子にはこの生理的原因が男子の如く疾病の場合のみに限らず、更に月經、姙娠、産兒、哺乳の場合に固有するのであるから、感覺神經の運動する場合が極めて多く、隨つて感情の昂奮し易く動搖し易い必然性を最も多量に有して居るが、併し乍らこれをして多情多感ならしめ、怨恨、嫉妬、虛榮、貪婪に導くものは、全く後天的な自由性に由來するのである。その必然的分子は單に生理的原因に由來する感覺神經の物理的運動だけであつ

て、この感覺神經を通過して意識の中樞に於て感情たらしむる感覺的內容に至つては、悉く自由的分子に屬するものである。そしてこの自由的分子は男女共通のものである。その一例を示せば嫉妬の如きである。嫉妬は女子にのみあるのでは無くて、男子にもある。斯樣に感情なるものは後天的な自由性に由來するものであつて、風俗習慣及び道德に於ける因襲的標準の如何によつて變移するのである。

唯だこゝに一考を煩はす必要のあるのは本能に於ける性的差異の有無である。吾々の經驗的心理に於て最も原始的な素朴的なものは本能である。この本能と云ふものは感覺神經の反射運動が遺傳になつたもので、自意識がなく、目的觀念がなく、これを遂行する敎養もなくて、且つその運動を續行する自然的性能である。本能の中には身體の發達に關する本能もあり、生命の保護に關する本能もあり社交に關する本能もあり、知識に關する本能もあり、利己的又は利他的の行動に關する本能もある。此等の本能の中で男女の差異によつて其處に如何なる必然性があるか。今日の實驗心理學の上では正確な研究がなく、唯だ子に對する父の愛情と母の愛情とに於て相違を認め、後者を母親本能と呼んで居るだけである。母のその子に對する愛着の心は先天的のものであつて、父のその子に對する場合と異ると云ふのである。これは傳統的意見者に於ても同樣である。殊に母性保護論者に至つては、この母親本能を以て母性の本體と爲し、その保護を力說するのである。私の意見によれば、實驗心理上に於て母親本能を認めるのは下の如き意義に由來するのである。元來、親のその子に對する本能に於ては父母同質のものであるが、その程度に於て異る。父のその子に對する本能的愛情は、母のその子に對する本能的愛情に比較して、程度が低いのである。その程度の高い本能的愛情を稱して母親本能を云ふのである。これには大なる原因がある。生物としての男女の生殖的本能は同一の目的に於て行動するのであるが、精子と卵子の結合に際して妊娠はこれを女子が分擔し、產兒又は哺乳も女子が分擔するのであるから、その生理的本能に於て女子はその行動の機會を極めて多く有して居る。殊に人類の進化史上に於て母系制度の時代には、父が何人であるかは解らないので勢ひその母を以て親としたのであるから、母親本能なるものは行動の機會を占有して居た譯である。その結果として、今日の母親本能なるものはその本來の生殖的本能をして最も多く發揮せしめたる經驗的總果であつて、女性に通有なる遺傳性となつたのである。これは父系制の時代を通過して父母兩系の時代に入つても變らないのである。この意味からして、母親本能はその子に對する愛情に於て、父に對して必然的により多くの程度の差を有するのである。子のその親に對する場合に於て、母に對する場合と父に對する場合とにその本能的愛情に於て程度の差を有するのは、子のその親に對する場合に於て母に對する場合と父に對する場合とにその本能的愛情に於て程度の差を有するのはその反影である。けれども、この父母又は親子の間に於ける本能的愛情の差異は理性以前のものであるからして、その程度の差なるものは尊卑優劣の段階ではない。價値判斷に於ける評價でも無い。母の愛が父の愛より

も尊く優れて居ると解するは誤解である。隨つて母の愛は溫かにして柔なるに反し、父の愛は冷かなれども強いと見るなどは誤解である。此等は本能そのものでは無くて、道德的習慣に由來するものである。父が放蕩息子を折檻する場合に母はその子を庇護するが如きは、何れも道德的愛情の差異であつて、その本能的差異では無い。本能的愛情としては倶に共通の能力に出るのである。それで母親本能なるものは程度の差に於ける本能であつて、父の本能に對して特有の地位にあるものである。けれども、それは女子によつて又た程度の差がある。子に對して愛着心の極めて深い母と極めて淺い母とがある。生んだ兒を奪はれて狂者のやうに狂ふ母もあり、他哺育を他人に委ねて平然たる母もある。或はこれを捨てゝ他の情夫に走る母もある。斯樣に母心本能は女子によつて差異を生ずるのであつて、動物の如くに一樣の本能によつて規定されて居ない。これは父の本能に於ても同一である。子に對して極めて深い愛着心を以て居る父もあり、極めて冷淡なる性格の父もあり。或は妻子を捨てゝ諸國を流浪して歩く父もある。

（三）　**倫理上に於ける性の必然及び自由**

必然と自由との意義に就いて前に述べた通り、人間の意志は一面に於ては必然によつて制約される自然界の存在（アル）であるけれども、又一面に於ては自由によつて決定される精神界の當爲（ベキ）であつた人格とはこの人間の意志に於ける自由の當爲性を云ふので、その人格の實現とはこの人間の意志に於ける自由の當爲性を發揮して、自己を完成させること

であつた。斯樣に見ることを道德的考察と云ふのであるが、即ちその道德とは行爲の善惡に關する當爲性を指すのである。この行爲の價値である。道德的意識と云ふものは、この場合に於て價値を決定して、惡を去り善を取る心である。この場合に於て價値の標準となるものは、これを稱して道德的標準と云ふのである。そしてこの道德的標準に照して惡を去り善を取つて、吾々の人格を實現することを道德的權利と稱するので、この權利を實現しなければならぬことが道德的義務又は本務と云ふのである。然らば吾々はこの人生の道德的生活に於て、男女の性によつて如何なる必然性と自由性とを與へられて居るか。道德的意識に於て、道德的標準に於て、權利義務に於て、男女は如何なる性的差異を有して居るか。是は大問題であつて、男女兩性問題に於ける中心問題であるが、私は先年拙著男女道德論一卷を公にして是に解答した積りである。

東京市の犯罪は逐年恐ろしい激增を示し、大正元年から同八年に至る東京府下の犯罪に就て警視廳の調査した處を見ると、此の八年間に其件數は約二倍に上つて居る。僅々七ケ年間に十一割强の增加である即ち如左。

年別	犯罪件數	人口一萬に對する犯罪件數
大正元年	二三二二八	八九
同　二年	二九四一三	一一〇
同　三年	三六二九七	一三一
同　四年	四〇一九三	一四〇
同　五年	三九二五五	一三一
同　六年	四〇九四四	一三二
同　七年	四六二九九	一四六

當局者の語る處によれば、第一、人口の都市集中に從ひ、正比例以上に犯罪の增加したる事、第二、國民思潮及び國民生活の激變した事、第三、生活難即ち物價暴騰の結果を擧げて居る。

羅馬東京間の大飛行の文化的意義（二）

早稻田大學教授
廓淸會理事　内ヶ崎作三郎

□日本伊太利の歴史的關係

それに羅馬と日本とは古來より關係があるのである。羅馬の舊教が如何に日本に宣傳せられたかと云ふ事も考へて見なければならぬ。何故に當時の大名が切支丹を信ずるやうになつたかと云ふと是は信仰せんが爲めに切支丹に歸依したのではない、初めは宣教師の持つて來た鐵砲が欲しい爲めに切支丹を信仰したのであつた。歐羅巴に於ける所の封建制度を破壞したものは鐵砲と火藥である、爲めに歐羅巴に於ては大名が山の上に城を築いて居る事が出來なくなつて來た。火藥は始め支那人が發明し亞剌比亞人に傳つて更に歐羅巴に傳へて、それが日本に廻つて來たのである。鐵砲がないと戰爭が出來ない。無鐵砲で行く事は出來ないのである。

非常に亂暴の事をすると無鐵砲と云ふ、即ち鐵砲が無くしては戰をする事が出來ないそれ位鐵砲が欲しかつたのである、それで葡萄牙の船が來ると各大名は競爭して之を購つたのである、恰も成金が競爭して書畫骨董を入札すると同じやうに、當時の大名は相競つて之を手に入れやうとしたのである、そこで是には宣教師を引附けるが善いと云ふので、天主教を信ずるやうになつたのである、段々教旨を聞く中に立派なものである事が分り、又宣教師の人格を信じてほんとに歸依するやうになつた。つまり學生が教會に英語でバイブルの講義を無料で聞いて居る、初めは英語を覺える爲めにやつて居る中に段々分つて來て、とう〳〵いつか眞面目な信者になるやうになるものである。

九州諸侯の中で最も熱心であつたのが、大村純忠、有馬晴信、大友宗麟である。そして是が羅馬法王に使節を出さうと云ふ事になつた。是は勿論宣教師が勸めたのであつたらうと思ふ。初めは相當の年齡の人が行つたのであるが途中で難船したりして、印度迄行かない中に戻つて來た。そこで是は若い者許りを派遣する方が善いと云ふ事になり正使二人副使二人共に十六歳未滿の少年を選んだ、何故に若い者を選んだかと云ふと私の想像では、大人が行くと罪が深いので道中恙なく行く事が出來ぬと云ふやうな考へから少年を遣つたのであると思ふ、是も矢張頭の古い宣教師は十六歳未滿の少年を遣れば必ず神々の守護の下に、安全に到着する事が出來ると云ふやうな事から割出したのであると思ふ。伊藤義賢、千々岩淸左衞門と云ふ二人の少年を正使として、中村及び原と云ふ二人の少年を副使として、天正十年舊歷一月三十日に葡萄牙の船に乘つて長崎を出帆した。或は印度に滯在したり或は喜望峯を廻つたりして、天正十二年七月五日葡萄牙のリスボンに上陸してそれからマドリッドに着して四人の代表者は帝王の禮遇を以て饗應さ

れた。今回の講和會議に於ける西園寺侯以上の待遇を受けたのである。それから又船に乘つて伊太利に到着し羅馬に行く途中は大名を歡迎すると云ふので、一行が羅馬に入る二日前に歡迎の爲めに近衞騎兵の二隊を派遣せられたくらゐで、時は千五百八十五年我が天正十三年三月二十日の金曜日に一行は愈羅馬に入込んだのである、其行程は七千里、日數實に三年と一箇月二日を要した。

□日本最初の羅馬派遣使

それて愈〻三月二十三日に拜謁の式が行はれた、其時はジパングと云ふ國から青年が使者に來たと云ふので——日本を出發する時には十六であつたけれども十八九の若盛りに成つて居たのであるから、日本の青年使節が來たと云ふので大騒ぎである、市中では之を見物しようと云ふので悉く屋根に登つたり或は窓から見たり黒山の如き有樣であつた。又一行の行列も大したものであつた、騎兵隊や砲兵隊や歩兵隊を行列に加へたのである。

日本の使節も當時は歴史に於て有名なる桃山の時代で、詰り信長の末期より秀吉の時代に懸けて日本の最も豪奢なる時で、使節の一行の服裝も仲々吟味し、洋服は着ないで、純日本式で行つたのである、其服裝は唐草模樣の金紗を以て刺繡した燃ゆるが如き緋羅紗の陣羽織に、朱鞘の大小を挿して絹の白足袋に雪駄を穿いて、馬に乘つて意氣揚々と乘込んだのである。生じつか不似合の洋裝をするよりも此方が何れ程堂々たるものであつたか知れぬ。そこで羅馬の人々も此有樣を見て非常に驚いた。禮砲を鳴らすやら鐘を撞くやら喇叭を吹くやらして歡迎した。

其時の羅馬法王はグレゴリー十三世で正に八十歳の高齢に達して居つたのである。愈々一行のものはバアチカンの宮に行つて拜謁したのである。

四人の使節は平身低頭して羅馬法王の足下に平伏して、足に接吻したのである、それで法王も感激の餘り一人々々を起して頬に接吻したのである。生神樣に接吻せられたのであるから非常な光榮である。それから使節は此方から持つて行つた所の書翰を差上げた所が羅馬法王は通譯から聞かれて『歐羅巴に於ては今や新敎が起つて羅馬敎を排斥しつゝある、然るに斯る時に當りつ遙に遠きジパングと云ふ國に於て此敎を信じ態々使節を遣はしたと云ふ事は、實に感激に堪えない自分は最早八十歳であるから何時天に召されても思殘す事はない』と云ふて喜んだが、其願が果されて翌月十日に天に召されたのである。

そこで一行は新しいポーロ第五世の卽位式にも列席して後千五百九十年天正十八年十月二十七日を以て、往復八年を費して長崎に歸つて來た。

實に鐵道もなければ汽船もない時代に眇たる一葉の帆船に乘り、鵬程萬里往復八年を費して羅馬迄往つて來たと云ふのであるから豪いものである。さう云ふ先祖が吾々にあつたと云ふ事を思ふだけでも、吾々は今後宜しく世界的にならなければならぬと思ふのである。

□支倉六衛門の羅馬行

次は支倉六衛門の事で此話は大抵の方が御承知であらうと思ふけれども、山本氏の著述に中々詳しく書いてあるから諸君に御一讀を勸めたいと思ふ。

ソテローと云ふ西班牙の宣敎師か日本に傳導に來た。ソテローは日本に來る前に比律賓に居つて慶長十一年に日本に來たのてある。幕府はソテローに病院を建設せしめたり、或は敎會を建てたりして大いに之を優遇したのてある。

當時伊達正宗の愛妾が大病に罹つて有ゆる醫者の治療を受けたけれども、少しも効果は現はれなかつた、其時ソテローが私が治療してやると云ふて藥を調合した、愛妾がそれを飲むと忽ち全快した、正宗は御禮をしやうとしたけれどもソテローは之を受けなかつたのてある、そう云ふ關係からソテローと知合ひになつて一週奧州仙臺にソテローを連れて行つて、而して臣下の者に說敎を聞けと云ふやうな事を奬勵したのてある。

然るに後に至つて幕府が切支丹、天主敎を迫害した。其時正宗はソテローを執成して仙臺に連れて行つたのてある。其時幕府は外國の船て送らうと云ふ計畫てあつたけれども目的は達しなかつた、仍て正宗は向兵鑑と云ふ者をして仙臺の松島に派遣して方々から船材料にする大木を集めてそれて船を造つたのてある。其船は横が五間半、長さが十八間帆柱が十六間三尺あつたと云ふ事てある、そこてソテローを船長として支倉六右衛門を事務長として、他に船員八十六名それから墨國使節のホツルガビン一行の者とも合せて百八十人が、愈々慶長十八年七月十五日の夜に月浦と云ふ所を出帆したのてある。一行は十月十八日に墨國に到着して六十八名は羅馬敎を宣傳すべく其處に數箇月滯在して居た、のち玖馬を經て西班牙に上陸したのは慶長十九年の八月十四日てある。それからソテローの一行は十二月二十日にマドリッドに這入つて、セントホアンシス大學を旅館に當てられたのてある。此間の講和大使の一行は巴里に行つて餘り振はない旅館に這入つたのてあるが、支倉六右衛門の一行はセントホアンシス大學を旅館に當てられた位てあるから、日本國民の體面を全うした使者てあると思ふ。

それから一行は西班牙の國王に謁見したのてあるが其際に支倉六右衛門は正宗のラテン語の書面か奉つて通商貿易を求めた。そこて西班牙と通商貿易を開くやうになつたと云ふ事てあるが、一體此仙臺と西班牙と通商貿易を正宗が何の爲めにしたかと云へば、西班牙の力を借りて德川幕府を轉覆するのてあると歐羅巴ては考へたそうてある、正宗は私の郷里の人て中々豪い人てあるからして其位の事は考へて居つたかも知れぬが、兎に角秀吉何者ぞ家康何者ぞと考へて居つたのてある、全く東北に生れたからして遂に驥足を伸ばす事が出來なかつたのてある、今日なら南部二十萬石に生れた原敬君てすら總理大臣になつたのてあるから、無論正宗てもあれば總理大臣になり得たと思ふ。

西班牙國王ヒリツプ三世は支倉六右衛門に對し特に朕が面前に於て洗禮を受けよと仰せられ、而も内親王お二方をば代父母とせられ、名高い僧侶から御前に於て洗禮を受けるの光榮を得たのてあるが是は中々豪い事て、支倉六右衛門は今日ならば我國第一の外交官てあるに違ひない。我々は實に今日の時代に一人の支倉六右衛門なきを悲む者てある十。月一行は西班牙を辭して十月廿四日に羅馬に這入つて十一月三日に羅馬法王ポール五世に謁見し、正宗の信書二通と種々の貢物を奉呈し、法王より非常な歡迎を受けた。斯くて首尾よく使命を完うして、再び墨國を經て比律賓に至り遂に日本に歸つて來たのてある。丁度元和六年の六月て往復八年を要した。一行八十七名の中無事に歸つた者は僅に十一人。或は墨國に止つて歸らなかつた者もあり。又病氣て死んだ者もあつた。當時幕府は切支丹宗を非常に迫害したので即時に上陸する

事が出來ないので、月浦で佛教に改宗したと云ふ事である。而して支倉六右衛門常長は元和八年七月一日五十二歳を以て逝き、仙臺の北方に在る光明寺と云ふ寺に葬むられたが、羅馬への使節と云ふものが今より三百年以上も前に於て行はれたと云ふ事は、如何に當時の日本人が世界的であつたと云ふ事を推測するに餘りあるではないか。

尙ほ最後に此飛行に就て吾々の考へなければならぬ事は日本人と伊太利人の類似である。感情的であり義俠的であり愛國的であり婦人の優しい處迄も似てゐる更に國民性に類似のみでなく、地理的に於ても類似して居る、即ち伊太利は半島であり日本は島國である、伊太利半島のアルプス山脈と日本の中央山脈とは善く似て居るのであつて、伊太利のタスカニセンの沃野は武藏野或は東海道の平野を加味するやうなものである、それから伊太利人の體格なども餘程日本人の體格と似て居る、偶には大きい男があるけれども兎に角ほつそりした人が非常に多いので、伊太利に行くと日本に歸つて來たやうな心持ちがするのである、殊に伊太利人は非常に藝術的の國民であつて世界に於ける藝術國は實に日本と伊太利であると云つてよい。

□明治のペルリ、大正のダヌンチオ氏

伊太利の文明を追懷するならばレオナルド・ダ・ビンチ、ダンテ、ミケラアンジエロ、ラファエル或はテントレット、ガリレオの如きさう云ふ偉人が雲の如く出て來て、近代の光榮ある文藝復興を追想せしむるであらう。伊太利と日本との間には斯る歷史的關係と文化的關係の親密なるものがあるのである。そこで此度の大飛行と云ふものは日本人が日本の文明を、世界の文明より全く區別して居る所の文明であるといふ考を去つて日本の文明と世界の文明とは其根本に於ては同一なるものであつて、同一なる所の人道的精神より現はれて居るものでなければならぬ、日本丈に特別なる定則があるとか、日本に特別なる一種の國家的觀念があると云ふやうな事は、是は矢張世界の大勢に順應する所以ではないといふ事を知らなくてはならぬ。吾々は日本の國民性を知り日本の國體の尊嚴なる事を知る併しながらそれは世界の大勢に懸け離れたものに非ずして、其根本に於ては世界の進歩したる思想と共鳴するものであると思ふのである、そこで此度羅馬の飛行隊が日本を訪づれたならば、吾々は世界的に之を觀察して行かなければならぬ。

明治の人々はペルリの黑船に依つて目を覺ました。我々はダンヌチオ氏等の羅馬東京間の大飛行に依つて世界的に再び目覺める處があらねばならぬ。ダヌンチオ氏は我が新聞通信員に語つた。吾等の計畫は斯の如く詩的構想より起つたのであるが、此計畫が成功すれば、伊國政府は東西兩洋の美術思想、商工業、政治を融合せしむるために、東京羅馬間に一週一回の定期航路を開くであらう。最後に余は今回の飛行に日本に無事着陸すれば伊太利皇帝の親書を日本皇帝に捧呈すると。東西兩洋の距離は益々短縮せられ、思想も感情も風俗も次第に渾然として融合する氣運を作るであらう。一大文豪の空想の突發的行爲と斷じてはならぬ。吾人は玆に大なる文化的意義を見出し、大飛行到着の日を以て、新日本建設の大事業に著手せねばならぬ。(完)

◎各地の遊興稅

金澤市にて發明した遊興稅は、遂に全國に採用されんとしてゐる。目下問題になつて、市會と花柳界と紛擾中の處を擧げると、京都、堺、德島、宇都宮、名古屋、根室、網走等である。

優生學と婚姻法との關係

法學博士　穗積重遠

■新婦人協會は花柳病男子の禁婚を請願す
―人種改良學を應用したる諾威の新婚姻法■

人種改良學を婚姻に關する法律に應用することは前から多少興味を持つて居つた。最近此事を調べて見たいと思つたのは、近頃新婦人協會といふのが出來て、手始の活動に議會に請願するといふ。それは第一は治安警察法第五條の改正、即ち女子に政談演說傍聽竝に結社の自由を要求するもの、第二は花柳病男子の結婚防止に關する法律案であるが、第一は兎に角として第二はユーゼニックスを應用した婚姻法であつて、先日新婦人協會から或人が來て自人の意見を述べた事がある。そんな事から研究して見たいと思ふ樣になつた、今日も寧ろ自分の意見を述べるといふよりも斯ういふ問題を提供して御批評を仰ぐといふ意味に解して頂きたいと思ふ。

新婦人協會の請願は、私の先づ密に心配するのは、果して之を紹介する議員があらうかといふことである。議員があつたとしても之を採擇して問題となる處迄行くであらうか、或は恐る一笑に附せられはしまいか。私自身としては原案其儘て贊成はし兼ねるけれども、其の趣旨には至極同感であり、一笑に附し去らるゝのは甚だ迷惑て、此問題を日本の社會に提供するといふだけは認めねばならぬ。

先づ斯ういふことは日本には新しいが、西洋諸國には例がある。新婦人協會の調査によると、諾威では昨年一月一日に新な婚姻法を發布した。

一、結婚當事者は現在に於て癲癇、癩病、黴毒其他の花柳病に罹患せず、また他にこれを感染せしむるの虞れなきことを文書を以て證明すべし。

一、現に花柳病に感染せるに拘はらず強いて結婚を實行せんとするものは男女双方に於て疾病感染の虞あることを了知し、且專門醫より當該疾病豫防の方法に就て一定の訓戒を受くる事を要す。

一、醫師は結婚當事者の男女孰れかに於て、自ら花柳病に感染せるに拘らずこれを隱蔽せる疑ひある時は、遲滯なく官憲に告知すべし。この場合に於ては醫師業務上の默祕義務によつて拘束せらるゝことなし。

一、結婚後に於て精神病、花柳病の隱蔽せられたる事實を發見したる時、若しくは結婚生活に堪へざる虛弱の體質なる事を發見したるときは當該結婚は取消さるべきものとす。

一、虛僞の證明書をもつて結婚したることを發見したる時は離婚の請求を提出する事を得。

■何故米國は優生學を應用する元祖となつたか
―禁酒問題、黑人問題、移民問題、少年問題、刑事政策■

以上を見ると今度の新婦人協會の婚姻法の改正案も大部分之に依るのであらうと思はれる。其他の歐羅巴諸國に於ても

似寄つたものがある樣である。併し元祖は米國であるといふことは疑なからう。なぜ米國で大問題になつたかといふと、色々な點がある。先づ第一に米人の愛國心から出てゐる。何處の國民と雖も愛國心のないものはない。日本人が愛國心を以て他に誇ることの出來るのは明かであるが、米人は自分の國を良い國にしやうと考へる。或點からいふと子供らしいかも知れぬが、何でも米人は世界第一にしたいと考へる。彼等は米國を世界第一にする爲めにはあらゆるものを犧牲にしやうといふ考を有ち、且つ之れを實行するだけの勇氣を持つてゐる。從つて人種改良學が開けて、之を社會の各方面に應用することも最も早く米國に於て行はれた。

殊に社會問題と人種改良學との關係の近頃最も大なる問題は全米禁酒の大運動で、之も元の起りは先づ第一に酒精中毒は子孫に傳はるから、禁酒を充分に行はふとするには其子孫を作らせない樣にしたい。故に大酒家の種を胎さぬ樣に結婚を禁止しやうといふのである。

第二は黑人の問題で、黑人と白人との間に衝突の問題がある。又混合の問題即ち黑白の結婚の問題がある。そこで之を禁止するといふことが問題となつて來る。それには人種改良學の見地から出來た子供が面白くないといふ樣なつた。

第三は移民問題で、これが矢釜しいのは日本人としては殊に痛切に感ずる處であらう。亞米利加には一方は亞細亞一方は歐羅巴の惡い方の人種が流れ込んで來る。そこでそれ等の人種との婚姻法が問題となるなるべく、劣惡な人種を入れない樣にし　うといふ議論が生ずる。

第四は少年問題である。之は亦分つて二つに別けることが出來る、(一)は嬰兒問題である(二)は不良少年の問題である。嬰兒はなるべくよく育てたい。なるべく死なさぬ樣にしたい、それには其根本の問題として、そんな弱い子供を生まさない樣にしたいといふので、茲に又人種改良の問題と關聯して來る。不良少年の問題も日本では此頃漸く議會の問題となつてゐるが、之亦元祖は米國で、幼年裁判法や感化事業から進んで、そんな子供の出來ない樣にするには、惡質遺傳の虞れあるものは結婚させない樣にといふ事にする。

第五は刑事政策で、變つた事をやり始めた。此考への元祖はやはりロンブロゾーあたりからであるが、刑罰は敵打の意味でなく其人の惡性を矯め社會から害惡を除かうとすると、そこにまた人種改良の問題が出來て來る。假令ばいくら監獄にやつてもどうしても治らぬ者がある。さういふ人の子孫は作らぬ樣にしなければならぬ。そこで自由刑で監獄に入れるのは、本人を懲らすのと社會に害を與へぬ樣にするといふ從來の定義の以に、更にまた監獄の中では子供を作る事は出來ないから、監獄に入れるのは子供を作る機會を與へない樣にするのであるといふ新しい意義が加はつて來た。と云つて犯罪人を悉く終身懲役にはされないから監獄を出ればいつても又子供を作る處の機會がある譯である。故に一層の事生殖を不能ならしめる手術をするといふことが行はれて來た。之は人道上から議論もあらう。又同時に常習的の犯罪者の結婚を禁止しやうといふことが問題となつて來た。

■米國は民間の輿論のみてなく各大統領も重視――心神喪失者に對する優生學及法律學の解釋■

斯様に婚姻法と人種改良學とは亞米利加に於ては段々結びついて來た。劣等な素質の者の婚姻を禁ずる。約言すれば劣種禁婚法といふものを段々慥へる様になつて來た。之れは民間でいふのみでなく、大統領も唱へた。ルーズベルトは『種族的自殺』といふ標語を作つたと傳へられる。ウイルソンも或年の教書に「全國が人種改良學をファミリーの向上に應用する事か重大なるを認識云々」と云つてゐる。其他學者社會改良家の間に盛んに行はれる様になつた。或人は『身分取扱役場（日本なら戸籍役場）は良民も犯罪人も常人も狂人も健康者も不健康者も賢人も愚人も、何人も同等に出入する場所にして、犯罪人癲癇花柳病亂酒家が種族を胎す官許の場所である』と叫んで惡質者の禁婚の必要を力説してゐる。一體米國は突飛の國だけ新しきを好む風もあり、段々と劣種禁婚法が行はれて來た様である。

私が目下大學にある一九一七年迄の材料によつて、四十幾州の中から此法律のざつと見當つたのを述べて見ると、第一種の禁婚法は、精神病、白痴心神喪失の者、身心薄弱なる者を禁ずる。之れは殆んど凡てゞあつて十三州だけは此規定がない。併しそれを法律で禁じてない處でも、アラタマ州では裁判でさういふ判決を下してゐる。けれども是は別段米國に限らないことゝて、我日本でも心神喪失してゐる者は結婚は出來ぬ。又結婚するのも人間の行爲である。品物の賣買と同様で、買はう賣らうといふ兩方の意志が一致した處で始めて賣買といふ法律上の關係が生ずる。婚姻に於ても、妻にならう夫にならうといふので法律上の婚姻が成立つ、從つて心神喪失者に婚姻の成立すべき筈はない。之は人種改良學からでなくても、法律上から當然の事である。米國ではこれなども人種改良學の禁婚法に入れてゐる様であるが、眞の人種改良學の立場からは精神の確な場合でなくてはならぬと思ふ。

■ミシガン州の法律は五年以下の重刑を科す――他ノースダコタ州及バーモンド州の新法■

第二種の方では、米國では癲癇といふものを非常に矢釜しくいふ。之が禁婚をしてゐるのに十州ある。而して花柳病者の婚姻を禁ずる州は五州ある。傳染性の疾患ある者の婚姻を禁じてゐる州を之に加へれば六州となる。それから肺結核の禁婚が二州。酒癖暴酒家の禁婚が三州。常習的の犯罪人の禁婚が二州。それに救貧制度のお世話を受けてゐる者の禁姻禁止が四州ある。

純粋な人種改良學的見地から禁婚法を制定したのはコンネチカット州の一八九五年の法律を以て嚆矢とする。それから一九〇三年のカンサス。一九〇四年のニュヂャーヂ等が早い今それをどういふ風に禁じてゐるかといふと、ミシガン州は一九〇五年の法律を、一九〇六年の五月廿一日に一ヶ條改正した。それは『第六條、梅毒又は淋病に罹り未だ全治せざるものは婚姻をなす事を得ず』といふのであつて、之を犯す時は五百弗以上千弗以下の罰金又はヂクソン監獄に於て三年以上五年以下の禁錮に處し、又は之を併科す。といふ重い處罰がある。そして本法に關する訴訟に於ては證人の有無を必要

とせず。夫は妻の、妻は夫の反對證人とすといふ事になつて居り、右の夫又は妻の爲めに處方を與へたる醫師は、診察により發見せられたることを證言するの義務を負ふのである。

其次にノースダコタに於ては一九一三年の三月一日の法律で、本州に於ては四十五歳以下の女子の婚姻に於ては男女相互に亂酒家、精神薄弱、精神病、其他曾て遺傳的精神病に罹りたる者、重大なる程度の肺結核、傳染性の花柳病に罹つて居る者』を禁じて違背せる者は、五十弗以上五百弗以下、又は三十日以下の禁錮に處する。

一九一七年のバーモンドの法は、醫師より告知せられたる者は、醫師の保證なくして婚姻したる者は罰金に處する。花柳病に罹れる事を認めたる醫師及び花柳病の藥を賣りたる藥屋は本人の住所氏名を衛生局長に報告するの義務を負ふ。報告料として二十五仙を下附し、怠るものは三百弗以下の罰金に處せらるゝ。其外婚姻する時に健康診斷書を出させるものもある。

■禁婚法に對する各種の反對論と其批評 ‖根本的反對と、尙早論と、有害論と■

花柳病者は結婚しない方がいゝに定まつてゐるが、法律として禁ずるのは正當かどうか。之は亞米利加に於ても種々議論がある。今其非難の論を分類して見ると、

第一の非難は根本的であつて、人種改良學及び遺傳學說に對する否定である。斯うなつて來ると我々專門家でないものには分らぬ。無論人種改良學も遺傳學もまだ完全なる學說ではない。併し今日の程度に於て或る程度に信ぜられるだらうと思ふ。又ユーゼニックスの中にも助長的のユーゼニックスと防止的のユーゼニックスとある。いゝ種にいゝ種を合せて益々よくしやうといふ助長優生學が、果して人間に出來るかどうか問題であるが、惡い種を除かうといふ防止的の優生學はいくらか確實で、多少の役には立たう。殊に花柳病者の婚姻禁止は、遺傳の問題まで行かずとも、妻が直に病毒を受けるのは確かだから、其方の學說の如何に拘らず、衛生上から花柳病者の禁婚法は之を適用してよいと思ふ。

第二は尙早論で、之は何にも起るが反對論ではない。此尙早論の中には二つの分子がある、(一)は研究が行屆いてゐない。根本研究が未熟だといふのである。之も尤もであらう。乍併あらゆる病氣に就てなら此議論も成立たうが、花柳病に就ては傳染することも遺傳することも可なり研究が行屆いてゐる。故に此議論も贊成が出來ない。(二)は官民の自覺がまだ其處迄行つて居らぬ。法律を作つても應用する迄國民が進んで居らず。之を取扱ふだけ官吏も自覺して居らぬ。それより性的敎育が必要であるといふ。之も尤もて、法律があるから國民が守るのではなく、國民がほんとうに守る氣になつて法律が生きるのである。乍併一方から云へば充分自覺するのを待つといふといつの事が分らぬ。法律は自覺を促す爲めに必要であるといふ議論も出る。普通選擧でも今は早いといふが、之を訓練する方法として自覺して居らぬなら尙更必要である。法律も一種の敎育であるといふ反對が出る。

第三は不用論で、そんなことは云はなくとも、劣種なるものは今の進化論から云へば自滅するものだといふ。之は尤も

らしく聞えて間違つてゐる。自滅するとは限らない。雑草は茂り易い例もある。又自滅といふ様な悲慘なことのない様にこそ此法を作らうといふのである。

第四は有害論で、此中には三つの議論が含まれてゐる。(一)は婚姻禁止は風俗を紊亂する。正當な結婚を許さぬと其結果は野合を殖ゆるもので、私生兒を増加するから却て有害だといふ。至極尤もだが、之も釣合の問題で、一方に失つても一方に得る所があれば、何れが害毒が多いかを研究しなければ充分な非難とは云へぬ。(二)は人口の減少を來すといふ。結婚禁止を廣く行へば成程さうかも知れぬ。一體西洋人は人口減少を恐れるから這麼議論も出るが、日本と亞米利加の如く人口の増加する國では問題にならぬ。況んや劣惡な種類の殖えない様にするのが禁婚の目的であるから、其意味の人口減少なら結構であらう。(三)は其人の健康上有害であるといふ。之は私達には分らぬ。其人に取つては何れ困ることに相違ない。併し大の蟲の爲めに小の蟲を殺すのは、社會全體の利益から止むを得ない。

■野合は禁じ得ずとの反對論と、實行困難論‖紐育州に於ける結婚許可證と健康診斷書■

第五は無益論で、分つて二つにすると(1)はそんな事をしても駄目だ。徹底的に有効ならしめる爲には生殖線の手術がよい、結婚を禁止しても野合を禁止することは出來ぬから無益であるといふ。併し私は社會心理は可なりの目的を達するであらうと思ふ。(2)は實行困難だといふにある。勵行が出來ぬ國民が自覺して居らぬ。第一花柳病者といふことを見拔くことが困難で、取締り上にも困り、相愛者を重い罰を科するといふことは行へない。結局は臭い物に蓋をするといふ。之は有力な反對で、現在でも却々旨く行はれてゐない。死文空文だと罵つてゐる位で、日本に於ける幼年禁煙法と同様實行困難であらう。併し乍ら之も相對的の問題で、實行困難ではあるが實行不能ではない。日本と西洋とは殊に結婚の仕方が違つてゐる。西洋では身分取扱役場の許可證を持て教會でする。死亡證明證がなくては寺で葬らぬと同様である。そこで其の許可證をやる時手加減がある。多くの州では色々聞き方を定めてある。其答は當人達の答だから當にはならぬが、我々の婚姻は先づ法律に反したものでないと宣誓させる。其他細い事項があるから、花柳病者の禁婚は此場合を利用して大分實行し易くなる。一九一七年のニューヨーク州の法律は、婚姻許可證を請求に來た時、

一、余は余の知る限りに於て花柳病に罹りたる事なし。

一、過去五年間に於て罹りたる事ありとするも、醫師診斷の結果今や傳染の憂なきものなり。

と云はする。吏員にして此宣誓を怠る時は百弗以下の罰金に處せらるゝ。尚ほ又宣誓さして云はしめた位では不充分だといふので健康診斷書をつける制度が一九一三年二月十一日からオレゴン州に行はるゝ事となつた。有資格の醫師の證明ある十日以内作成の診斷書を必要とする事になつた。又花柳病なりと知りつゝ虚僞の事實を記載した者は本州の開業免狀を取消す。且つ診斷書料は二弗半以上を取つてはならぬ。赤貧の者には郡醫が無料で與へる事になつてゐる。中には對手の者に對する警戒の爲めたゞ健康診斷書を見せしめる制度の州もあるが、併し此州のは禁止の爲めである。

それから此の診斷書は男女共に出させるかといふと、米國では女には無理で、ノースダホタもオレゴンも男子のみになつてゐる。又實行方法はあるかも知れぬ

が、又潛る方法が出來る。著しいのは米國にしては特に隣の禁じてゐない州に行つて結婚する事が出來る。これがほんとの新婚旅行かも知れぬ。離婚に就ても同樣て今度は離婚しやうと思ふと夫婦が隣りの洲に離婚旅行をやる。けれども斯樣な拔ける方法があるといふのは、其州ては矢釜しくて外の州に行くのだから勵行が出來る證明になる。又斯ういふ結婚のしかたは法律上無効だといふ裁判もあれば刑法上取締つて罰することも出來る。

■人權蹂躙なりといふ誤れる非難と＝法律限界論より來る超法律との非難■

第六の非難は人權論で、之は大ざつぱの議論である、米國では自由民權の本場だけに、結婚は我々の自由であるといふ。之は成程尤もだが、それては共同生活は出來ない。結婚に就ても現在我々の結婚は絕對の自由ては無いてはないか。假へば近親結婚は出來ぬとか年少てはいかぬとかいふ事になつてゐる。それに又一つ加へたのみて、それだけて人權蹂躙とは云へぬ。米國ては各州の議會が法律を可決しても裁判所の方が上に立つてゐて、カルフォルニヤの議會て排日を可決しても訴へを起すとワシントンの裁判所迄行つて憲法違反といふ判決をすると無效になる。現に此有毒者の結婚禁止が人權蹂躙てはないといふ裁判をしてゐる。

第七の非難は法律限界論で、本法は法律の限界を超越したものだといふのである。一體世の中の人は法律萬能論で、法律で定めさへすれば何でも出來ると考へるが、それは間違てある。花柳病者の禁婚の如きも法律が敎育の範圍に飛込んだものだ。法律を拵へてもそれが行へぬ樣では困る。敎育的といふが自らそこには限界があるといふ。之も程度問題で親孝行は法律の爲すべきものでなく、敎育の施すべきものであるが。傾向を助長するとは出來る。親不孝を罰するとか親孝行の者に特權を與へるといふ樣な、一臂の力をかすのは好い。

■論理學的法律學より社會學的法律學まで＝日本に於ける花柳病者禁婚法の困難■

全體此の人種改良學的の禁婚法なるものは、法律學史の上から見て面白いので昔は第何條々々といふ事と照し合はせてどうだとか云つた論理的法律學から、全體法律は何の爲めにあるのか、法律とは人間の行爲を規定するのてある。それては人間とは何かといふことになる。そこて生物としての人に關する法律が研究され、ついてダーウインの進化論を加味して來て、一段進步して來た、乍併法律現象を生物學的に見るのが終極てはない、人間は外の生物と違ふ點がある。肉體的には違いなくとも、特別の精神を供へたものだといふことになつて、今度は心理學的の法律研究といふことになる。ところが個人だけの心理てはまだいかぬ。人間は社會的に存在するといふので、群衆心理學から更に社會學的法律に進んだ。人間が社會生活をするものだといふ事を考へると、一層結婚禁止は意義がある。橫だけてなく縦の社會生活を重要視するは大切なことてあると思ふ。

併し一言特に申さればならぬのは、日本の民法は、以上の亞米利加に於けるよりも實行難の事情がある。法律上の婚姻制度は極めて簡單で、屆書一本で成立つ役場で調べて許可證を貰つて敎會に行くといふ樣な面倒はない。日本では事實上の婚姻と法律上の婚姻と全然別に扱つてゐる。日比谷大神宮で結婚式を擧げ帝國ホテルで披露會をしても法律上の婚姻ではない。其反對は寫眞結婚で、當人達は知らぬ。顔を見た事もないのに法律上は夫婦になつてゐる。之は亞米利加で問題になつて、日本人會も禁止する事になつたから別として、事實上夫婦であつて法律上夫婦てないのが非常に多い。所謂內緣の妻てある。私は第一此の狀態を改め屆書主義を廢したいと思つて機會ある毎に述べてゐる

それとすぐ打突かるのは花柳病男子の禁婚法で、尙更日本ては屆出をしなくなるだらうと思ふ。花柳病者の禁婚は趣旨は甚だ贊成てあるが、實行甚だ困難てあらう

（文實記者）

クロポトキンの相互扶助論

帝國大學教授 文學博士 井上哲次郎
廓清會評議員

■相互扶助論は進化論に基礎を發す■
——自然淘汰の法則と獨逸哲學の影響——

クロポトキンと云へば、目下思想界の問題となれる森戸助教授の筆禍事件にて廣く日本の社會にも紹介された。彼は八十餘歳の高齢でなほ露西亞に生存してゐると聞いてゐる。此の好々爺が過激主義を唱道するは大なる矛盾の樣に思はれる。私は千九百十九年卽ち昨年出版のクロポトキンの『相互扶助論』を見た。併し此著書は既に千九百二年に始めて出版されて、十二年も經過し、更に千九百十四年に再版されて居る。

此の相互扶助論の論據とする點を擧げて見ると、先づ第一に動物間の相互扶助を說いて居る。次に野蠻人の相互扶助、未開人の相互扶助を論じ中世都市の相互扶助、我々自身間の相互扶助に說き及んでゐる。動物間の相互扶助論は、ダーウインの進化論に其根本を發して居ることが全編を通じて感ぜられる。ダーウインは十九世紀の半頃、動物の進化論を主張した。併しながら此主張は其昔希臘の古代並に支那の古代にあつたのである。而してそれが科學的に唱へられたのは近世の事である。ダーウインは自然淘汰を生存競爭によりて動物の進化と說いてゐる。此の生存競爭に依つて自然淘汰に趨くの眞理なるを說けるは前例のない事である卽ち生存競爭を以て自然淘汰の法則の如く考へるに至つたのである。我國に於ては自然淘汰を以て「生存の爲の努力」と解釋して居るが、獨逸にてはもつと强い意味に譯してゐる。卽ち「生存の爲の闘爭」といふ言葉を以て是を解し、獨逸文化生活の法則の如く十九世紀時代には考へて居つた。此思想を以て推進み來れる獨逸人は、その人類が優等の人種に進まんとするには、生存の闘爭に勝つにありといふ哲學の最高潮を來した結果、今次の大戰を誘發したのであつた。

獨逸の哲人ニイチエが超人說を唱へたのは、此のダーウインの進化論の影響である。當時獨逸民族が頗る是を歡迎したのを以て見れば、其時代の思想を察知するを得やう。從つてニイチエは當時の民族の思想を代表せりと云つても敢て過言でない。元來ダーウインはそれ程迄に强大なる意味を有しなかつたであらうが、此進化論より來る生存競爭は、獨逸に入りて斯の如き强き意味に解せらるゝに至つたのである。併しながら不適者滅亡適者生存の理法はダーウインの進化論の中にも含まれて居るのは勿論である。而して此進化論に附隨して起つて來たのは相互扶助論である。而も其相互扶助論は今や獨逸的に强大なる意味を以て闘爭的に

進み來つてゐる。

■動物間に於ける相互扶助の實例
——西比利亞の馬と密蜂蟻の相互扶助■

ダーウインの進化論の影響を受けたクロポトキンの相互扶助論は、クロポトキン自ら創めて考へ出たし物ではない。ドクトル・ケツスレルと云ふ動物學者の說を聽き、クホポトキンは其研究を始めたのである。さうして彼自身の研究と他の動物學者の說とを參酌して此の動物間の相互扶助論を生むに至つたのである。爰に於てダーウインの進化論の足らざる處を、クロポトキンに依つて補足さるゝに至つた。

動物の自然淘汰は必ずしも生存競爭によつて起らない。相互扶助によるものが頗る多い。クロポトキンはその『相互扶助論』中に於て、彼が曾て西比利亞を旅行した際實驗せし此地方に於ける動物間の相互扶助の頗る興味ある例を擧げてゐる。又異民族間の相互扶助も其時研究してゐる。今二三その例を示して見やう。

馬は家畜として頗る溫和なる動物である。所が中央亞細亞に野生の馬がある。この馬は非常に繁殖して一大群をなして居る。其群集を爲せる結果大なる力を生み、狼と雖も獅子と雖も熊と雖も是を襲擊することが出來ない許りでなく、却つて馬が群をなして猛獸を襲擊するの狀態である。現今の騎兵などは此集團の力を利用したものである。一體家畜は元來野生の物である。鷄の如きも南洋に行けば原野を飛び遊んで居るさうである。卽ち家畜は野生のものを飼ひ馴らしたものである。而してこの野生の禽獸を家畜とし得るは、實に動物間に相互扶助性を有するからである。彼の蟻、蜂等の群集生活を見たならば、此間頗る發達した相互扶助性あるを知るであらう。專門家の研究によれば、蜂は他の蟲類が其貯藏せる密を盜みに來ると、番をしてゐる蜂は之と戰ふのである。蜂の最も恐るゝは蟻群の襲擊であるといふ。此蟻が群を爲して襲擊すると大低の動物は僻易する。南洋の方面では蟻が隊伍堂々と他の動物を襲擊するといふことである。

■ニイチエは植物間の相互扶助を說いた
——北海道の牛雀の爺さんとペンギン鳥■

斯の如き動物の相互扶助の爲めに、其動物は存續發展をなすのであるといふことをクロポトキンは力說して、ダーウインの論及しなかつた箇所を補足してゐるけれども植物間の相互扶助を論ぜなかつたのは、確に遺憾であつた。

ニイチエは之を最初に說いてゐる。進化論を讀んで見聞した處によると、立樹なども個々に一本離れて生存すること甚だ困難である。林を爲し森を成せば暴風雨等の襲來することがあつても、其災害を蒙ることなく、安全に生存することが出來るのである。松杉などは風に弱いものであるが、群生して一緒に生長すれば順當に育つ、平地に杉を植うるには、大木の間に苗木を植うれば總ての場合順當に成長するさうである。クロポトキンは之に氣が附かなかつた。人間もさうて、老若の兩者相俟つて人間の存續發展を圖るものである。

北海道に於ては、牛を牧場に放つて置けば、其群中の一匹は必ず高處にあつて步哨に立ち、外敵の襲來に備へてゐるといふ。是も相互扶助の一例である。和田垣博士の「兎糞錄」の中に「雀の爺さん」といふのがある。これはお爺さんの處に雀が澤山寄つて來て、お爺さんと談話を交へるのであるが、人間が多數集まれば此雀に迫害を加へるから、雀は恐れて逃げるやうにな

つた。又南極に居るペンギン鳥は、始めて探検の爲めに人間が往つた際は、澤山集まつて來てお辭儀をしたりなんかして極めて親しく人間に近寄つた。然るにペンギン鳥は羽毛が高價であるし、肉も食用に供せられゐので、之を捕へたり殺したりした結果、ペンギン鳥は次第に人間を恐れて遠かつた。此「雀の爺さん」の如く雀がお爺さんに近寄り、又ペンギン鳥が其始めに人間に接近したのは、取も直さず此相互扶助性が彼等鳥類中に存在して居ることを、證して餘りあるものてあらう。

■獨逸に勝つたのは聯合軍の相互扶助
——クロポトキンと日本の特殊なる國體■

以上によりても動物若くは植物に相互扶助の性質があつて、その相互扶助性の旺盛なるものは、それだけ存續發展の力が大であると言ひ得るのである。故に個々獨立して相互扶助の性に乏しく、弱肉强食を極端に發揮せる彼の猛獸の如きは遂に滅亡に至るべきものなるは明かなる理である。茲に至つて吾人は生存競爭のみに依つて進化すべきものでなく、相互扶助によつて進化發展すべきものであることを知り得るのである。

クロポトキンの相互扶助論に於ても、其例擧したる箇所に頗る疑はしき點もあれど、大體に於てダーウインの進化論の缺陷を補足したものと見ることが出來やう。人間の社會に於ても相互扶助は緊要なるものてある。即ち廢兵、不具少年、盲啞者、白痴狂人等の如き社會の劣敗者を保護し、善導するは其民族の道德心の進步せるを證するものとして、又之によりて大に發展すべき因となるのてある。今次の歐洲大戰中聯合軍は相互扶助、所謂正義人道を以て立ち、獨逸の權力主義軍國主義侵略主義、所謂弱肉强食の思想を擊滅せんとしたのてある。此大事實は常に吾人の念頭に置かればならぬとてある。即ち相互扶助が勝利を得たのてある。

クロポトキンは其相互扶助論に於て、日本の例を擧げなかつたのは甚だ遺憾である。若しクロポトキンにして日本の言語を解し、特色ある國體に通じて居て、其著書中に日本を引例したならば、色々興味多き結果を來したてあらうと思ふ。

クロポトキンの著『十字街頭に於けるデモクラシー』を見ると、社會——國家の理想を、權力を基礎とするものと、協調協約を基礎とするものとの二つに分けて、所謂專制政治の國家は權力の基礎の團體て、即ち崩壞前の露西亞の如きてある。立憲政體を採れる國家の協約を基礎としたる國體て、即ち米國の如きは是てある英國も君主政體てはあるが協約を基礎としてゐる國てある。然るに日本は協約を基礎とせず、權力を基礎とせず、其中間に於ける特異の政體を有する國家てある此特色ある國體を知らずして、其デモクラシーを論じてゐるクロポトキンの著書には大なる缺陷ありと云はねばならぬ。日本が今日までの發展を來せるは此相互扶助に據るのである。所謂擧國一致君民一如といふも皆此相互扶助に外ならない。

今次の大戰に於ても、露西亞は既に日露戰爭後に過激派が起つて革命を行はんとした。然るに歐洲大亂中遂に過激派は澎湃たる勢を以て全國に瀰蔓し、其結果國體の崩壞を見るの慘狀を呈した。獨逸に於ても亦不統一の結果彼の失敗を見るに至つた。即ちビスマークの時代より社會黨なるものが起つて、それが漸次勢力を得、戰後に於ては遂に社會黨の時代となつて了つた英國も亦完全なる統一を缺き戰時中愛蘭土は獨立運動を起したのてある。

是等各國の不統一は明かに相互扶助の大精神を閑却し去つた爲めてあつて、其結果は遂に今日の國民思想の大動搖を馴致したのてある。此の國民思想の動搖は一時的のものに非ずして永續するものてあるから、其變化如何によつては憂ふ可き結果を來し、或は民族の滅亡を招來せぬとも限らない。翻つて現在の日本を顧るに、著しく鬭爭的氣分の漲るものなるは甚だ憂慮に堪えない。啻に資本家と勞働者との鬭爭のみてなく、總ての社會を通じて各階級に各個人に反目嫉視の傾向がある。速に平を得て相互扶助の精神が横溢する樣にならなければ國運の前途は樂觀するを許さぬてあらう

■軍國主義に就て浮田博士の謬說を駁す
——日本の武士道と建國以來の人道主義■

浮田和民氏は我國は外人の說明以上の國家であつて第二の獨逸でなく、第一の獨逸若くはそれ以上の軍國主義であると云つて居る。其說によれば、獨逸の權力主義に伴ふ國力の發展は百年餘の日月を經て現在に至つたのである。即ち十八世紀にナポレオンが普魯西を蹂躙して以來、其敵愾心より來る旺盛なる愛國心は、遂に權力主義軍國主義を釀成するに至つたのである。日本の國家主義は獨逸の如く短日月の間に生み出されたものではない。つまり建國以來、日本の國家主義は養成されたものであるから、第二の獨逸以上であると說いてある。乍併斯かる見解は甚だ誤れるものであつて、日本の國民として斯の如き言をなせば益々世界の各國民をして危惧の念を懷かしむるであらう。米國の如き、支那の如き、甚だしきは朝鮮の如き國民士民は一種不思議なる感を抱いてゐるが、併し日本は決して第二の獨逸、所謂軍國主義 侵略主義の國ではない。世界各國民が懷ける、軍國主義の日本てふ誤れる見解は速に之を解くにこそ努むべきである。上杉博士は權力主義、專制主義、侵略主義を鼓吹して居るか、併し是は日本一般國民の思想ではない。我國には往古より權力主義を主張し鼓吹したる者は一人もない。權力主義は漢學に依りて講ぜられて居つたけれども、是を鼓吹したる者のなきは歷史に明かなる事實である。

日本は古來より純然たる人道主義の國である。此の人道主義は揆つて日本の武士道となつた武士道は斷じて權力主義侵略主義の意味を有つものではない。即ち道義に適せざる、人道主義に反く、人道主義を妨害するものを膺懲する爲めの武士道である。換言すれば人道主義の實行に必要なる力が日本の武士道であつて、是が即ち武士の精髓である。今度の歐洲大戰亂に於て聯合國が唱道した人道主義——正義人道は我建國の大精神に一致するものである。

■民本主義と賀川氏の勞働過重の謬見

——相互扶助の大精神を以て精華を發揚せよ■

次に民本主義に就て一言述べて見たい。民本主義即ちデモクラシーは、國家が統治權を有して共和政體を布くものであるとするならば、日本帝國にとりては憲法違反である。元民本主義は十七世紀以來英國に於て唱へられ、又亞米利加に於ても唱へられた、乍併國體を異にする我帝國を、英米のそれと同一視するは甚だ意を得ぬのである。日本の國體は憲法の第一條に「大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治す」と示されたる如く、如何なる論をなすとも是を覆すことは出來ぬ。而して民を本とする政治は日本開闢以來の精神である。明治大帝の御治績は明に建國以來の精神を發露せられたものである。

賀川豐彥氏は最近「勞働者崇拜論」といふ論文を雜誌「解放」に揭載して勞働者を崇拜すべきものであると論じて居るが、其論文は公平を失し、勞働者のみを偏重せるの嫌ひがある。社會は筋肉勞働者のみによりて進步發展するものではない、精神勞働者をも併せて尊重せねばならぬことは言を俟たぬではないか、且つまた勞働者崇拜の事實はこれ亦我國建國以來に存するのであつて、神武天皇は畏くも農民を以て「大御寶」と仰せられた以來歷代の天皇は農民を國の寶として愛撫し給ひ、民を本として政治を行はせられたのである。されば此事實此の歷史に徵しても民本主義乃至勞働者崇拜は我が建國以來の大精神であると思ふ。

之を要するに日本は權力主義の國ではない。日本は建國以來の國家主義である。併しながら國家主義必しも權力主義と同一ではない。我が國家主義は眞に人道と結合するものである。正義人道と相一致するものである。國家が如何なる政體を形成するとも、結局は其國民の安寧幸福を致し其人民の進步發展を促すのが目的であつて、是即ち民本主義であると思ふ。憲法を制定し、人民に參政權を附與するなどは、其の目的を遂せんが爲めにせられたものである。

要するに我國民が今後世界的に向上發展し、全世界の最優等民族として、世界の人類を指導せんと欲するならば、相互扶助は適者生存の理法なることを信じ、彼のクロポトキンの唱道せる過激主義無政府主義は斷々乎として斥け、クロポトキンがダーウインの進化論より得たる所の相互扶助論を考究し、依つて以て君民一體、勞資協調、社會の各階級を通じて協力一致し、人道主義の下に相互扶助の眞精神に結合し、帝國の精華を益々發揚せしむべく努力せなければならぬ。

（文責記者）

改造の意義

立教大學總長 哲學博士
廓清會評議員 元田作之進

□革命、改革、改善の定義

「改造」の二字は最近の新しき言葉であつて、新聞雜誌に改造々々と持囃されて居るが、果してどう云ふ意味に於て使用せらるゝか。流行の初めに研究し確定し置かなければ、危險のことがあるかも知れぬと考へたからである。然らば改造の定義は果して如何。先づ第一に考ふべきことは、此改造に類したる言葉に革命と云ふ言葉がある。佛蘭西の革命、露西亞の革命の如き其の一例である。又米國の獨立戰爭も革命の一つである。卽ち英國に屬して居つた屬國が獨立して共和國となつたのである。次には改革と云ふ言葉である。此言葉の意味は革命程根本的でない。十六世紀の宗敎改革は基督敎それ自身を根本的に改革したるにあらず、同世紀に至り著しく誤れる形と精神に惰落したるを、ルーテルが憤慨して改革を加へたのである。日本の御維新も改革である。國體に於て何等變りなき君主國であり、唯一時政權が將軍家に移つたのを、王政に復古した迄である。レヴォリウーション卽ち革命とレフォーメーション卽ち改革は既に限定せられ確定せられたる意味を有して居る。改善又は改良の言葉もあるが、少しく輕き意味にて使用せらるゝのである。卽ち局部の改善又は改良と云ふのであつて、監獄改善とか、租稅法、敎育の改善とか稱するのである。

□改造と革命の差別

抑改造の意味は之を如何に用ゆるか、以上に陳べたる三つの意味であるか、又は三つの意味中の何れにあるか、愼重に警戒して攻究すべきことと思ふ。私は斷言する。改造は革命の意味を含まず。國體に何等關係がないと。改造は改革改善の意味である。故に基督は此世を破壞せず完成せんが爲めなりと公言し給ふたのである。此主義を有する基督敎信者は、國家を段々善くする爲めに來たのである。そして此國家をだん／＼善くするには、如何にすべきかは重大なる問題である。

第一に考ふべきは社會國家は建築物にあらずとの一事である。若し建築物であるならば、全く破壞して其の材料を以て、新しく建築することが出來るが、吾々は此の會社國家は住み惡いと云つて、新しき會社や國家を建てることは出來ないのである。蓋し社會は建築物にあらず、一つの有機體であるから、破壞して新に建てることの出來ないと云ふことは學者の

定說であ。る人間も其の通りて造り變へることは出來ないのである。それを露西亞の過激派はやつて居るが、それは甚だいけない。國家や社會は之を崩壞せずして完成することが出來るのである。

□我帝國の健康診斷

又吾々日本人として考ふべきことがある。それは日本と云ふ國の身體の健康診斷をなさねばならぬことである。どうも日本人はワアワアと云ふて騷ぐことを知つて、冷靜に研究することを怠る國民であるのは、誠に慨歎すべき事柄である。故に吾々は先づ日本人と他の優秀なる强い人種とを比較して、考究して見る必要がある。世界の統計に由れば人類の壽命は平均三十三歲となつて居る。一見すると甚だ短命の如く見ゆるけれども、夫れは一歲以下で死亡する者が全死亡者の四分の一を占めて居るから、斯く三十三歲と云ふ平均年數になるのである。故に吾々三十三歲以上の者と雖も妄に悲觀する、に及ばない、吾々が强健の身體を有するならば、吾人御互に前途は尙ほ春の海の如く洋々たるものがあるのである。唯玆に悲しむべきは日本人は西洋人に比して平均年數が二三歲低いことである。同じ人間であるから同じ壽命を保つことが出來る筈であるのに、西洋人に比し二三歲短かきは何か缺點があるのに相違ない。又日本の男子の體量は十四貫匁であるのに、西洋人は十七貫匁である。又日本の男子の身長五尺二寸四分であるのに、西洋人は五尺四寸餘で日本人の方が約二寸程足らぬ。故に吾々は吾々の身體を破壞せず。此儘の身體を運動、滋養分攝取其の他の衞生方法に由りて完成しなければならぬ。基督は身體は聖靈の宮であると仰せられたが、實に其の通り尊きものである。然るにギリシャのプレトーは此の身體を靈の獄屋であると申して、非常に窮屈に暗黑的に感じたのであるが、靈の宮と靈の獄屋との異なれる二つの思想は實に雲泥の差があるのである。基督教は實に健康を主張し奬勵する宗教である。そして健康なる個人々々が集つて社會國家を形造るのである。

我國では年々肺病で死する者十萬人ある。是等は各人の衞生上の注意と醫學上の進步に由つて、漸々少なくすることが出來ると思ふ。其の證據には西洋では、其の死亡率が漸々減少して居る。然るに日本のみ增加して居るとは、誠に痛歎すべきことである。又日本には癩病患者が年々壹千五百人死するのである。併し此癩病又は肺病患者などは一般の人々が大變嫌ふから、其の家族や醫師が正直に屆出でず隱蔽する弊があるので、實際の人數は必ず以上に揭げた數より多くあるに相違ない。兎に角日本には十萬人の癩病患者があつて世界第一の癩病國である。印度にも多くの癩病者が居ると云ふことであるけれども、とても日本に敵ふものでない。そして此の病人を保護する機關が誠に貧弱であつて、府縣立の病院が五ケ所私立の病院が五ケ所合計十ケ所に過ぎぬ、しかも其の私立病院は皆外國人の經營に係るもの丶みであるとは何んと恥づべきことではないか。

□酒の消費額と醜業婦の數

又我國には年々八億萬圓の酒を消費し且つ最近に於て酒價が著しく騰貴して居るから十何億萬圓と云ふ金額になると

思ふ。そして此酒の爲めに三百五十萬石の正米を潰して居る。諸君若し是れだけの金が外の方面へ使ふならば、何うてあるかと云ふことを考へ見られよ。私立大學を何程建てることが出來るか。又青年會館の如き立派な建物を何ヶ所建設することが出來るか。又中學校なり高等學校なりを幾何新設することが出來るか、酒さへ止めるならば、日本の少青年が相當の學力を有して居るならば、小學の生徒が中學に入り、中學の學生が高等學校又は高等專門學校へ入學し、夫れより大學へ入學するに格別の困難、面倒等ない樣にすることが出來ると思ふ。

次に吾々の内に梅毒の爲めに死する者が年々一萬人あり、娼妓の現在數が五萬人藝妓の數が漸々増加して十萬人に近くなつた。是れは戰爭の爲めに成金となつた者が、多く出來た爲めに其の方面の需用の關係上、近來著しく殖えたのも慥かに一大原因であると思ふ。又海外にある醜業婦の數が三萬人であつて、世界何れの所にも居る。誠に恥かしきことであるが、我國は世界第一の醜業婦輸出國である。海外へ出て見ると支那人が世界至る所に居つて、洗濯屋とクックをやつて居るのが最大多數である。併し之は正業であるから決して恥づべき事ではない。又猶太人も世界至る所に散在して、各國の人に憎まれながら商業を營んで居る。是も普通の商業であるから恥づべきことではない。然るに日本の婦人は醜業婦として、世界至る所に赤恥を晒して居るとは、實に情けないことである。

□自殺者の救濟事業

日本にはまた年々自殺者を一萬人も出すのである。そして甚しきは自分だけでなく、子供二三人を連れて兩國から飛び込むとか、或は毒藥を用ゐて子供數人を殺し然る後自身もそれを飲んで死すると云ふが如き例が屢ある。自殺を決心する迄には幾多の複雜せる事情や、煩悶すべき事件が輻輳して、其の壓迫に打勝つことの出來ぬ爲めもあらうが、兎に角是れは實に重大なる眞面目の問題である。されば此複雜せる事情や煩悶の原因を尋ね、之を慰め之を救ふ所の基督教其の他の宗教を必要とせないのか、深く考ふべき事柄であらう。

神戸に城と云ふ人がやつて居らるゝ婦人慰問會があつて、自殺者を救ふことに獻身的努力をして居らるゝのである。自殺の如きも最初死んだ場所には、他の者も一種の暗示と誘導を受け模倣する傾向を有するものである。新聞の三面記事の如き、活動寫眞の如き、泥棒やジゴマを模倣する暗示的傾向があるから、弊害があると云ふのである。偖此の城と申す方は神戸警察署と相談し、從來多數の者が自殺した場所十ヶ所に「一寸待て」と大書したる札を建て、尚ほ其の文字の下に「精神上の御心配あらば御相談する」と記して置くのである。そうすると手紙で相談して來るのもあり、又態々訪ねて來て其の煩悶の慰安解決を求むる者も少なくない。兎に角今日迄全く自殺を決心したる者百人を救濟せられたとのことである。私が此の城氏を訪問致したる時は、十二三人の人が收容せられて居つた。宗教の力の偉大なるや知るべきである。

□不良少年の感化と盲聾啞者の教育

次に日本には不良少年が八萬人あつて

東京が一番多いのである。故に地方の少青年の人々は、學ぶ可き學校があるならば、成る可く其の地方で勉強した方が得策と思はるゝのである。此不良少年感化事業もなか〳〵困難の事業であつて、大事業と云はねばならぬ。

又日本には盲目者が七萬人聾唖者が十三萬人居る。私は西洋で唖の牧師と唖の聽衆を見た。其の牧師は手で說敎するのであるが、人格も高く其の手の動かし方が、實に高尚優美で、決して見苦しくない。聽衆は說敎を聽くのでなく、其の手先きの動くのを視るのである。そして感極つて泣くのもある。讃美歌も矢張同じく手を動かして、誠意を捧ぐるのである。我が内務省でも此聾唖者等の教育方法に就て、研究して居らるゝとのことであるけれども、是れは一政府當局に任すべき問題にあらずして、國民全體が深く考慮し研究すべき緊要の問題である。米國にケレンケラーと申す唖の人が、立派な教育を受けて著書も二三冊を出した。是は其の師たる。ミス、サラバントと云ふ偉い人の教育の力にも由ることとであるが、兎に角感心すべきことである。又日本には盲聾唖の三つを兼ねたる氣の毒の人が男七名女六名ある。一體救濟事業は、どの種類の事業でも、共通的に考ふるならば、誠に可愛そうであると云ふ眞の赤心愛心がなければ出來ない。況や救濟事業の改良改善の如きに於てをやである。

□結論

要するに吾人同胞の肉體、精神を改造するには、深き誠意と愛心がなければならぬ。そして愼重なる態度を以て研究を重ね、膏薬を貼るに止むべき局部と薬を飲むべき病體又は手術を行ふべき患部とを區別して、夫れ相應の手段を盡さねばならぬのである。そして我が國家と社會の各局部に於て、此理法を最も徹底的に遂行すべきであると思ふ。敍上の凡百問題は革命に由らず、改革、改善の力に依つて、健全なる發達を遂ぐべき重要なる問題であることを忘れてはならぬ。晩近流行する勞働問題の如き、勿論重大の問題であるに相違なきも、吾人は今迄陳べ來りたる問題は夫れ等に優りて解決すべき尊き緊切の問題であることを忘却してはならぬと思ふ。

◎藝妓は綿服を着よ

藝妓が衣類に華美を盡すは、婦女子を刺戟して華美を誘發すとの理由の下に、橫須賀市長は藝妓業者に懇談して藝妓の衣類を一揃ひ四五十圓位の綿服で調製せしめんとすとの說あり、之に對し、藝妓にして、綿服を着せんか、良家の婦女は綿服を着ければ藝妓に似たりとて綿服を忌むに至るべく、社會政策上由々しき問題なり、市には目下三千五百圓の不當支出問題ありて、刑事上の犧牲者出づべき模樣なるが、藝妓より時價九千圓の帶を市に寄附し該問題の解決に資せられたしと皮肉の申出もあると。

◎赤坂女將の死

五十人といふ多數の養女を有して其生血を吸ひ、日本一の萬龍を寶物にしてゐた春本の女將は、命將さに且夕に迫り死ぬるばかりとなつてゐる、其れて女將一日の注射代二百圓、博士學士、看護婦何人といふものがつき切りて其れが合計一日五百圓とは勞働者を喰物にする貴族富豪を得意にしてゐる藝者屋の暴富眞驚くべきものである、春本では女將の死ぬるのを見越して抱へ妓が何十人其の葬式に立つ爲めに揃ひの衣裳の製造に血眼であると。

◎江尻遊廓移轉問題

靜岡縣江尻町宿場遊廓移轉問題は數年來の懸案にして、屢々唱されたるも立消となり、縣當局亦斷乎たる處置に出でずして今日に至れるが、今や同町の發展は移轉の急務を感じ來りたるを以て、又々町有志間に移轉問題持上り、近く具體的運動に着手すべき形勢なるが、有力なる候補地は江尻町字小芝町一本木附近なりと、何ぞ進んで廢止せざる

先づ家庭の改造

法學博士 山脇玄

世界の大戰によつて、現今の社會組織に一の大なる缺陷のあることが見出された。世界の先進國は、今日の社會組織の大改造を要することを知り、着々これが計畫を遂行して居る。然し如何に社會組織を改造しても、實際その組織の中にありて活動する人物が優秀なるものでなくては、眞の成功は覺束ない。殊に我國の如き、鎖國時代を距ること未だ遠からず凡ゆる點に於て不熟にして幼稚なる憾あるを免かれぬ時代にありて、絶えず飛躍を重ねて進まねば、いつも先進國に先進國の後へにのみ氣兼してゐねばならぬ。そこで我國に於て、今日社會の改造を行ふには、先以て人間の改造を企てねばならぬ。如何にして善良なる人間を造ることが能るか、家庭は人間を造る一の工場である。善良なる進步したる工場からでなくば、優良なる製品を作り出されぬ如く善良にして健全なる家庭からでなくば、健實なる人間は出てない。

我國は明治維新の改革によつて、專制政治を變じて民衆の意思を尊重する立憲政治となり、經濟の狀態も教育の狀態もみな個人の人格と利益とを本として、漸次改善されるやうになつた。然るに家庭の狀態のみは依然として舊い型式に據らねばならぬ程度にある。相變らず家と家との結婚にして、人と人との結婚でない。世界文明國共通の風習たる相思相愛の結婚とは、大なる距離がある。斯ういふ家庭に育ちたるものは、如何にして健實善良なる子女たることが能きよう。

相思相愛の結合を闕く、不完全なる婚姻は、純潔なる樂を味ふことの能ぬ結果自然家庭外にありて酒を呷り忌はしき女に接するやうな不眞面目な行を敢てすることになる、酒はこの不行儀を手傳うて、國民の身體と品性を劣惡なものにする。故に此際社會の改造を計るものは、先づ第一に家庭を潔めて、一夫一婦の制を嚴重に守らしめると同時に、すべての惡を增長せしめる酒害といふものを知する道を開かねばならぬ。

今日の如き不完全に劣惡なる家庭から出る政治家も教育家も實業家も、到底、世界改造の機運に適するだけの事業を爲すことは出來ぬ。試みに政治家を見よ物價暴騰のために、中產階級は生活の脅威をうけてゐる。この際歐米の政治家の英斷に倣うて、鹽を官營にしたる如く、米味噌醬油の類を官營にする位の政策を立てればらぬのに、內地米を以て酒を造ることを止めさして外米を代用し、且つ之に禁止稅を課することさへ實行されぬ。米國の如きはビールを製ることまで禁じたといふ。我國の政治家は餘りに氣力がない。當然行ふべきことを少數者の反抗を恐れて行ふことができぬ。實業家にしても亦然りてある。堅實なる方策を以て、製品の販路を世界に擴張するのでなく、唯だ一時經濟界の變態に乘じて機械的に小資本の小社會を起し、やがて。經濟界の反動の來た時、我も人も共倒れの悲慘なる狀態に陷るのであらう。不健全なる人間は、堅實なる事業を營むことのできぬは明かである。教育家にしても亦然りてある。彼等は自發的教育の緊要なることを知つてゐる。判斷力を養ふには、今の試驗制度の甚だ非なることをよく知つてゐる。之を知りながら斷行する勇氣を缺いてゐる。これは不完全なる家庭で造られた人間として巳むを得ぬ弱點である。

近時にては民族の品質を劣惡し、社會の組織を頽廢せしむる三大病因として、結核病、花柳病、アルコール中毒が最大のものと數へられる。この三大害毒を除くに、海外文明諸國は着々その實效を舉げつゝあるも、我國の政治家や教育家や社會事業家の爲すところ甚だ手溫く物足らぬを感ぜしめる

歐米より歸りて

本鄕教會牧師　海老名彈正

□英國人と國際聯盟

私は英國に參つて、國際聯盟に關する英國人の腹が、何處迄行つて居るかを究き留めたいと思ふて、種々調査研究の結果、同國人が何處々々迄も貫徹したいとの大決心と、信仰と希望を有する事を確めたのである。勿論英國人全體と云ふ譯てはないが、少なくとも同國の政治家及び宗教家が强固なる大決心を有して居る事を確認したのである。昨年四五月の交に、基督信者の大會が英國の諸々方々にあつて、私も屢々出席したが、何處の會ても、「期は滿ちて居るから聯盟には何處迄も努力する」との決心が仄見えて心强く感じたのである。

由來英國人の頭には、國際聯盟の眞義は國民の聯盟に在りて、政府の聯盟にあらずとの觀念が鞏固てある。故に我が日本の國民が、國際聯盟の如きものは政府の仕事てあつて、吾々の關する所にあらずと思惟する思想とは、雲泥の差があるのてある。故に英國の敎會は敎派の如何を問はず、此國際聯盟には甚だ熱心てある。それは基督信者の根本精神に符合するからてある。そして現下の大勢に於て猶ほ武裝して世界の平和を維持しなければならぬと云ふことは基督信者には非常に心苦しく感ずるからてある。國民の聯盟鞏固にして、初めて國際聯盟の極致に到達することが出來るのてあるから、英國人の此の心掛けは誠に結構の事と思ふのてある。

□ロード・ブライス氏との會見

私は英國から佛蘭西の講和會議へ派遣された。有名なる大使ロード・ブライス氏に面會の希望を有して居つたから、或る人の紹介に依つて、約束の日に同氏の宿所を訪問したのである。尤も私の訪問した時間が、約束の時間より約二十分早かつたので、二階の書齋に案內されて待つて居つた。室內にはウィルソン、グラッドストーン、ダンテ等の肖像が掲げてあり、新舊の書籍は卓上に堆高く積まれてある。私は此二十分間瞑目して同氏を待つて居つたが、實に嚴かな氣持ちの善い感じに打たれたのである。暫くにして八十の老翁たるブライス氏が靜々と二階に昇つて書齋に入られ、初對面の挨拶が濟んて主もに宗敎談を致したのてあるが、人格の高き同氏が遠い日本の旅人なる私を信賴して誠に打ち解けて話されたので、愉快の感に打たれたのである。然し此時は國際聯盟に關する話をする事が出來なかつた。

其の後、私共は佛蘭西よりスヰツツランドへ行く爲めに、佛蘭西郊外の停車場へ參り、旅行免狀であるとか、荷物であるとかの檢査を受けつゝある所へ、偶然ブライス氏の姿が見えたので、私は先日の好意を謝し、尙ほ何故に此處に來られしやを質したるに、氏は新鮮の空氣を吸ふべく郊外散歩に來たのであると答へられた。日本の大使ならば數名の隨行者があるを常とするのに、同氏には一人の隨伴者すらないのである。其の時私は同氏に對し、國際聯盟の形式はどうでも構はぬが、之に對する貴國民の精神、決心が、確かであるや否やを聽きたいと申した處が、同氏は「少なくとも我が英國の教會に屬する人々は、確固たる精神と決心を有して居る事を保證することが出來る」と答へられたのである。

□英國名士の聯盟觀と同盟運動

又有名なるロード・セッシー氏などは「國際聯盟に對しては、吾等英國の政治家は斷乎たる決心を有す」と明言して居らるゝのである。其の他ロイド・ジョージ氏は勿論、アスキス氏、グレー氏の如き、皆同意見を有して居らるゝので、私は心を强くして英國を去つた。

ロイド・ジョージ氏の演說が、私の英國出發の日にあつたので、遂に聽くことを得なかつたが、其の演說を米國ニューヨークへ行つてから、或る人より傳聞した。其の要領は「神が基督に由つて顯はれる福音を信ずる者にして、始めて聯盟が精神的に成立し得るとの信仰を持つことが出來る云々」とあつたさうである。

又英國には一つの聯盟期成同盟會があつて、諸名士が集合して居る。そして此會には各部門があり、外國部などでは、心理學、社會學其の他諸學專門の立場より、此聯盟の問題を研究して居るのである。私は其の會の書記長に遇つたが、日本人は此問題には凡て冷淡である。日本の大使其の他も總て冷淡である。そして之は畢竟信仰問題の相違に歸着するであらうと申して居つた。又ブラザス・フッド・ムーヴメント卽ち兄弟主義運動の團體があつて、約三百萬人の會員があり、會長はドクトル・クレフォールと申す方であるが、齡八十三歲なるに拘はらず却々元氣の老翁である。私は同氏に面會して、あなたは神の理想を前に持つて、神の靈に滿たされて居らるゝから、誠に若々しい」と申したのであるが、實際非常に若々しいのである。そして聯盟にも非常に熱中して、兄弟を世界中に網羅し聯盟を形成する精神、活動力となりたいとの希望を有して居るのである。

□米國の根本的思潮と國際聯盟

彼のロード・ブラッセル氏は米國に聯盟の誠意があるや否や危んで居らるゝが、それは兎に角として世界の凡有大問題の如きは、多くは英米二國民の諒解協同に由つて決すると云ふても善い位である。米國は却々解らぬ國であつて、頭がワシントンにあるか、ニューヨークにあるか、ボストンにあるか、サンフランシスコにあるか又大統領にあるか、上院にあるか、將た州の議會にあるか實際不明である。然し茲に一つ分明なるものがある。それは彼の太平洋には大風に由りて來る潮流と、太陽や月の引力に依りて來る本來の潮流と二つのものがある如く、

米國社會にも政治上より來る所の潮流と所謂信仰の深き點より來る所の潮流とがあるのである。基督の精神のある所、確乎たる基礎があるから、此基礎より來る所の聯盟は米國の信者を動かさゞるを得ないのである。遲かれ早かれ異の大潮流の共鳴するものがなくてはならぬ。

私が昨年十月に急いで米國に渡つた理由は、シカゴの附近に組合教會の大會があり、日本の代員として出席しなければならぬからである。同會は九日間も繼續し、毎日三回も會合があるので却々多忙であつた米國人か如何に是等の會合に興味と熱誠を有して居るかを知ることが出來ると思ふ。此の會合には私は二回演說をしたのであるが、前には日本の傳道を論じ、後には國際聯盟に就て論じ、大分場外れの過激の議論と思ふたけれども、深く感ずる所があつて陳べたのであるが、幸に第一組合教會の牧師デー君の如きは、非常に喜んで滿足の意を表して呉れたのである。序に申すが同會の晩餐會抔は非常の盛會で、一千二百名の多數の人々が集つたのである。斯の如き大晩餐會は私の初て遭遇した所のものである。

□我帝國の使命と自覺

日米教會殊に日本の教會は東洋を導かねばならぬ。何うしても我が國の勞働、普通選擧其の他の根本的問題は基督教の信仰に由らねばならぬ。勞働者の賃金を殖せば、酒を飮み藝者買ひをすると云ふことであるならば、實に有害無益である。若しさうでなくして子弟に完全なる教育を施すとか、又は其の他有利有益なる費用に充つるならば、賃金增加も尊き意義があるのである。又資本家も暴利を貪りたる金を以て、妾宅の費用に供すると云ふならば、社會風教の爲め甚だ宜しくない。人間は高き理想に生きて之を實現しなければならぬ。神の國を建設することを心掛け、基督教の根本心理に由らなければならぬ。

現今の日本の基督信者は誠に少數であつて、僅かに十五萬人を有するのみである。私が或る米人より「此少數では凡ての事却々遣り切れまい」との質問を受けたのであるが、實際之だけでは力が弱くて、國家の大事を成し遂ぐることが出來ないのである。吾々は現在の十五萬人の信者を少なくとも三百萬人にしなければならぬ。最近世界の形勢を考ふるならば、日本の陸海軍は殆んど邪魔物になつて居るのである。我帝國は實に眞正なる人格の高き人物を要求するのである。吾々は此根本主義の下に大に自覺し、確固として立たなければならぬ。百萬の軍人あるよりも三百萬の立派なる信者を得ると云ふことは肝要である。我帝國には種々の論あり說あるのであるが、吾々は既に議論の時代が過ぎ去りたることを知悉し、英米の活きた實踐躬行に倣ふことを努めねばならぬのである。（文責記者）

不埒な小學校長

讀賣新聞の身上相談欄に、こんな不埒極まる小學校長の居ることが出てゐた。

私の知人で、五年前横濱の或私立小學校長に嫁いた者があります、もと〳〵校長の方から望まれて行つたのですが、其校長には隱し妻が三人もある外に私生兒もあつて、既に梅毒の三期に罹つてゐる放蕩家です、最近校長の子供を生んだ妾の一人が、生活難から親子の引き取り方を校長に迫るので、校長は思案に餘つて、私の知人たる細君を邪覺にし、離縁をしやうと機會を待つてゐる中、知人は親類に病人が出來たりして非常にゴタ々が續き、ひどく疲れたので一週間ばかり東京の嫂の宅に休養にゆき一月十三日頃歸宅すると校長は其の不在中知人の印を勝手に押して離婚屆を作成してゐますて知人は身寄も勘く途方に暮れてゐますが、私は氣の毒に堪へません、今後如何いふ道に出てたら宜しいでせうか、校長は相當な古い教育家で年々神奈川縣から其の學校に補助金が出てゐる位の僞善家です（横濱ＡＴ子）

貧民窟十年の經驗（二）

バチエラー、オブ、デビニチー　賀川豊彦

□人殺し

貧民の命程安い生命は無い。初めの年には多くの人が殺されたが、その後段々少なくなつて、遂に私の米國へ行く年には一人も殺され無かつたが、可哀想に二十錢や三十錢のことで、喧嘩をして人を殺す人もあつた。

その人殺しの有様を、一々書いて居ても程が無い程である。私の宅にも、誤つて人を殺して監獄から出て來た人が二三人も居つたことが有る。彼等は皆臆病もので、私がついて居れば幽靈は出ぬが、私が留守だと幽靈が出て仕方が無かつた。

私は彼等の日常の行爲を見て、人を殺す樣なものは、日常は惡人では無くして、全く性格が連續しないものであると云ふことを知り得た。昨年の四月に目玉の文と云ふものを殺したSと云ふ男の如きは俠氣一片の男で有つたが、激昂する癖が有つたので、遂に失敗してしまつた。

貧民の犯罪は、どんな場合にどうなるかと云ふことが殆どわからぬが、殊に人殺しするものは、どんな時にどんな風に殺すかと云ふことがわから無いのである。激昂すると全く性格が分裂してしまつて、何が何にやらわから無いのである。貧民窟の子供の激越性は小さい時から拘束すること無しに捨てゝ有るので、それこそ手のつけ樣の無い程放縱なものである。それが心理的アウトマチックモーション（自動感應運動）で、活動を開始するものであるから、實に厄介である。之は今日の貧民救濟が心理的救治をまたなければならぬ點であるが、十年間貧民窟に住んで見て、十の子供が二十になり、五つの子供が十五になり、彼等の多くが相當に犯罪を犯すまで大きくなつて見ると、小さい時からの放縱な子供には、矢張り誘惑が多い樣である。それで貧民窟そのものが、殺人養成所の樣な氣がしてならない。大正八年一月一日の朝て有つた。近所のものが「人殺し、人殺し」と騷いだのは。そして私は半町ばかり西の小野柄橋の傍に行くと、若い青年が一人殺されて居た。之は兄弟（土方の）喧嘩を仲裁して反つて殺されたので有つた。

そんな時に思ふことは、人間と云ふものは、つまらぬものであると云ふことである。

□近所の交際

近所の交際は凡て女を通じてゞある。亭主を通じて交際することは實に珍らしい。亭主は親和力が無い。年の寄つた猿

の様に、怒つた様な顔をして、たゞ身體を横たへる爲めに貧民窟へ歸つてくる。それて酒ても一所に飲めばまた別てあらうが、日本ては西洋の様に一緒に飯を食ふと云ふことが無いから、一寸と親しみがつか無い。然し、女の人とはすぐ親しくなる。女の人は多く家に居るし、心細くて困つて居るから、助けてあげるとよろこんて受ける。それて貧民窟の事業が女手を多く借らねばならぬのてある。

凡て、貧民窟の仕事は小さい仕事――心を使つて注意と親切を要する仕事が多いので、大まかにこなしつけることが出來ない。貧民程小さいことに凡てひがむものは無いから、このひがみを取る爲めに、無理な要求を聞か無い様にすると共に、一寸と引受けたことは直に、小さい約束ても守らねばならぬ。

近所ては出産と死亡の際には大抵世話役が有つて、金を集める。十年前には一軒に就いて五錢て有つたものが、今日ては拾五錢になつて居るが――それを見ても景氣の善いことがわかる――これは世話ずきのおかみさんが廻つてくれるのてある。貧民窟てはこの世話好きのおかみさんがある爲めにどれだけ助けられるか知れない。この種類のおかみさんは貧民窟では顔きゝの方で、喧嘩の一つ位はやりかね無いこともないが、多くは凄味のある美人である。ゴロッキにも親切であるし、泥棒にも親切であり、金と貧民には親切なのである。たゞ世の中を何とも思つて居らず、少し位の犯罪は手柄の様に考へて居るのが惡いのだが、貧民窟でもしも面白いことがあつたとすれば、こんな連中を集めて、一晩御馳走して馬鹿なことを云ふて送るのが一番面白いのてある。

中流社會であると、玄關に立つて「今日は」から始まつて、御辭儀の五六ぺんもして三十分位い座つてて無ければ雜談も始まら無いが、貧民窟では戸口に立つてもう冗談が云へるのである。それて少しも四角張ら無くて交際が出來る。

病氣だと云へばうるさい程親切にしてくれる。私は特別てあらうが、中流社會に居れば、なか〳〵世話をしてくれる人などは無いが、貧民窟て病氣になれば幸てある。どんな病人ても世話してもらへる。餘程惡い人か、新しい人て無ければ困ることは無い。どんなものでも相互扶助をする。それてドン底の日本人は非常に親切なものてあると私は感佩して居るわけてある。私が貧民窟て病氣て寢ると乞食して居る様な貧乏な人がバナナを持つてくる。蜜柑を持つてくる。その人の收入が一日五十錢しか無くとも三十錢位の見舞品を持つて來てくれるのてある。そんな時には私は涙が流れる

それて近所と仲善くすると、近所が凡て一家族の様になつてしまう。もしも堅氣ものばかりてあれば貧民窟に居る方が、私に取つてどれだけ仕合せか知れ無い。私は大きな寄宿舍に居るより面白い。路次を通るおかみさんを寢床の中から呼び止めて、三軒西て、ペストの黴菌の居つた鼠を五錢儲ると思つて妻君が交番所へ持つて行つたと云ふので、夫婦喧嘩をして居る様子を聞いたのはつい先達てある。外から『先生もうおやすみだつか！』と聞いてくれる。『おばさん、もうおやすみ！』と床の中へ潜ぐり込む。野趣とも云ふか、貧民窟趣味と云ふか、呑氣なところが私の氣分に會ふのてある。貧民窟程仲善くなるところは無い。貧乏すればこそこんなに人間の本性が善くわかるのだと有難くて仕方が無い。それて貧乏して居ても善人て居れる人を求めて、交際すると、生活と云ふものは面白いものてある。貧乏程人をひッつけるものは無い。『おばさん、今日はウチ飯炊かずや食はしてくれんか？』と云へば食ふものが無くても食はしてくれるのが貧民窟の侠氣てある。貧民窟ては之を『氣まへ』と云ふて居るが、貧民窟ては此『氣まへ』一つて動いて行くものてある。

然し惡い近所が引越してくると困る。喧嘩をする、賭博をうつ、亂暴をする。實に厄介てある。それて、こんな場合には近所が聯合して排斥して居ることが屢々ある。それても近所が惡い連中ばかりだと、それてその附近が惡化するのてある。然し貧民窟て一番いやがられることは、賭博や泥棒の密告を巡査にすることて

ある。之を『犬』と云つたり『ヤエンボウ』と云ふて非常に排斥する。貧民窟へ這入つたが最後、決して之を他に發表し無い。互に、罪惡を蔽ひ合ふと云ふことが徳義となつて居る。即ち貧民窟は一種の『逃れの町』である。

この逃れの町も、最近景氣が善いので、喧嘩が少くなり家の中が立派になり、簞笥が這入り『みづや』が這入らつて來た。又面白いのは、簞笥や、『みづや』が無くとも、その家の主人や妻君の性格によつて、家が變つて見えることである。同じ貧民窟の家であり乍ら一方の家は穢く、一方の家は美しく見えるのは實に面白いことである。これは一つは性癖にもよるが、その人の教養にもよるのである。木村の爺さんと云ふのが二疊敷――一軒の家が二疊しか無い家――に居た。この木村の爺さんは菲式人夫て有つたが、その家は綺麗に紙を貼りつめて、實に立派なもので有つた。どうして造へたか正面には芝居の道具立にある樣な床の間の畫が貼つて有つたのには私も吃驚してしまつた。最近二疊敷にも景氣が廻つて來て、本年の春から電氣燈がつく樣になつたが、その爲めに、皆室を飾り出した。それて、同じ隣合せても雲泥の差がある。兎に角、貧民窟程面白い妙な處は無い。

□風紀問題

貧民窟で、私は恰度十年間辻説教をつゞけて居る。その反響が表面から見れば實に僅かであるが、妙な所に響いて居るから面白いのである。『あなたの説教を百幾十回聞いた』と云ふて訪ねてくる青年もあれば、幾十回之れて辻説教を聞いて居ると云ふ女もある。ずつと前には亂暴するものも多く有つたが、今では亂暴するものとては無くなつたのみならず、聞きに來る連中が之を自分手に防止する。最も面白いのは、破落戸漢の連中が鎮めてくれる。そして決して、その代償を要求はしない。昔ならば、破落戸が何かするときつと金で有つたものだが、今はさうて無い。そして私達の云ふて居ることが。少しづゝ浸み込むと、『先生の云ふ通りしたら。善いんぢやけんどなア、なかなか出來んわい』と云ふて居る。

然し喧嘩の少なくなつたことは驚く可き程である。之は世界が段々文明になつてくるからであらうか？それとも酒が減つた爲めか？說教がきいて來たのか？、

私は段々生活の程度が向上しつゝある爲め、その他、種々の原因がその中にあると思ふ。然し淫賣婦は相變らず繁昌して居る。博奕は毎朝七時頃まで第一回の大きなものが開張される、或者は晩に蠟燭をつけて居る。然し全體から云ふて風紀は少し善くなつた樣だ。子供がお辭儀を覺えただけても大分違ふ（以下次號）

瓦の砂漠大阪

酒井君の家の二階にて…
一九二〇、二、一二の朝

賀川豐彦

大阪の朝
瓦屋根に！
美しく光る
朝の光
電線を通して
黒ずんだ空
靜かに
明け行く
大阪の朝

近所の
小學校に
子供の
わめきの聲が
きこえる
町を行く
下駄の音は
寒空に冴えて
カランカ、ランと鳴る

高見から見ると
瓦の砂漠のやうにみえる
大阪に
私は、マホメット教徒のように
朝の禮拜を
神に捧げよう

ア、瓦の砂漠
瓦の砂漠
瓦の砂漠のに
太陽が上昇る

（基[illegible]世界）

教育改造の根本的精神

東京女子大學教頭　安井哲子

□戰禍の悲慘と婦人の自覺

先日倫敦の或る方より、國際聯盟に關する諸方面の方々の意見を集めたるものを、送つて頂きましたが、其の内のミッセス、マクアーフアーと申す方の意見の初めに「吾々婦人は色々の違つた問題を有して居る。然し並に異なれる階級や、境遇を一つに結ぶものがある。それは吾々及び吾々の子孫が、今後再び戰爭に遇はぬ樣にとの切なる希望である。滿四年の間此の悲慘なる戰爭に對する強き觀念は、勝利の希望にあらず、唯世界平和の理想に近づきたいとの切なる祈願である云々」と記してありました。私は之を讀んで歐洲諸國の人々殊に軍人及び婦人の方々が、滿四年間如何に苦痛を甞められたかを思ふて、深き同情同感を催すと同時に再び此苦き經驗を甞めぬ樣にとの痛切なる希望は決して無理ならぬ希望であると思ふたのであります。

そして歐米諸國の婦人が後方勤務であるとか、軍需品製作であるとか、其の他種々なる任務に力を盡したが爲めに、自ら其の婦人自身の力を自覺して、婦人は獨り男子と異なれる者又劣れる者として、取扱はるべきものでない。との觀念を強くし、政治上及び社會上の種々なる新しき位置を求めて、之を得つゝあるのであります。

□個人の自由と人格の尊重

吾々は個人の自由を認めればなりませぬ。それは老幼男女の別なく、又職業や位置の別もないのであります。故に男女勞働者の如き社會上低級の位置にある者と雖も、個人の自由を望むは當然であります。勿論天賦の能力才智に由つて、優劣者のあるは已むを得ぬことであります。然し社會上の位置が異なれるも、人格者としては何等優劣なきことを忘れてはなりませぬ。斯く社會上の階級差別が自然に出來るときには、貧者は益々自重し富者も其の富を善用することを心掛ければなりませぬ。

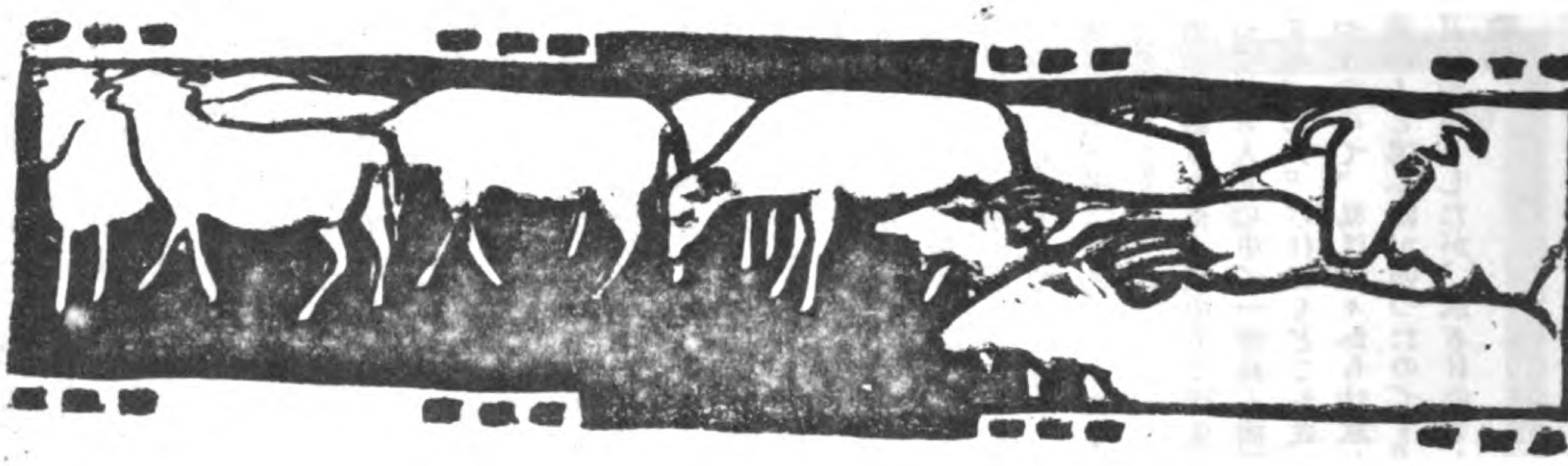
元來人爲的差別は健全なる發達を爲すことを得ぬのでありますから、成る可く個人の自由と權利を重んじて、其の差別を撤廢すると同時に、其の要求する所の權利權能も正しきものであり、之が行使も正しく運用することが肝要であります。そして教育上の問題に關しては教育を受くべき機會を得ざる人に機會を與へて人格を尊重する必要があります。又義務教育を延長して高等教育を與ふることゝ、高き見識を與へ男女性の別、階級の別を超越することに努力しなければなりませぬ。

□眞の教育と精神的生命

或る人は教育は實際生活其ものであると云ひ、商業地ならば總て商業教育を施すべしと主張するのであります。又或る人は兒童の教育は商業とか農業とか特殊のものを强ゆることは、兒童の人格を無視するのである。故に人としての教育をなさなければならぬと主張いたされます。是等の問題は愼重に考究を要すべきであるが夫れは兎に角として今回の戰爭の爲めに、各國の者が内外接觸したる結果溫かき交情を深うし、國際聯盟には平和安寧を貫徹する國民的教育のみならず、世界的教育を受け得たと申し得られませう。

英國のパットソン教授が申されますのに「此の一大好時機に於て、宗教家が全く宗派の心を捨てゝ多くの兒童や男女學生の爲めに獻身的に働き、新聞記者、著述家も共に黨派的精神を一掃して犧牲的に働き、以て男子の向上を努むべきは勿論女子の覺醒と内外の思想の融和を圖り、一面に於て眞に個人の人格尊重、萬國公平、世界同胞の主義、正義仁愛の平和主義に從はねばならぬ」と是は實に公明達識の說であると思ひます。

教會の祈りの詞に「吾人は吾人が當然受くべきものを受け又與ふべきものを與へ、各人の爲めに眞に生きる樣に……」とありますが、是れは實に氣高き尊き祈りであつて、吾等も共鳴して願ふべき精神的生命であると思ひます。（講演大要文責記者）



下關 娼妓病院手記（八）

前某驅黴院看護婦　田口和子

廿二日（火曜日）

通勤の歸り、ふと氣が附いて見ますと、舊と鵠の家であつた跡へ綠屋といふ看板が下がつてゐますので種々私は考へて見ました。聞く處によれば彼の『裁判事などは孫子の代迄決して起すものではない』とよく〳〵懲りた彼の人が到頭一家を畳むで田舍へ引移つたといふ事なのです。私は社會に罪惡を作る惡魔の住家が一軒減つたといふ事は、誠に喜ばしい事ながら又候其の後へ新しいそれと同じやうな否な寧ろ前以上の凄い惡魔が網を張りに掛つたといふ事を思ふ時、私は此の世の中といふ者が何時になつたら、私達が考へるやうな社會になるであらうかと悲まざるを得ないのです。併しそれと同時に尙ほ一層の努力と奮鬪と、そして最も高い信仰とを以つて何處までも此惡魔の撲滅に力めなければならないといふ信念がいよ〳〵固くなつて來るのです。無論私達のやうな者が考へる處は、飽く迄精神的で彼等を敎へ導くといふ事ではありますが。

八月十八日（木曜日）

富山縣下の滑川とかどいふ一部落より起つた米騒動が、瞬間に全國へ響渡つてあちらにも怪我人が出來たの、こちらにも財産家の家屋が全部群集の手に燒かれたのと、それは〳〵此廓などでも毎日此話して持切りの有樣です。そして此土地にも遲かれ早かれ何れにしても只だ時間の問題で、必ず起るに違ひないと人々が謂つてゐるので、人々は安い心地もせずオツ〳〵として毎日暮してゐるのです。警察署から警官が出張して、物々しい警戒振り、私共は此の有樣を見ると何だか今にも大地が引繰返さるるやうな氣持が致します。樓主連も此の騒ぎに遠慮してか、今迄寄れば觸はれば一も酒二も酒と酒びたりになつてゐる連中さへも昨今はそんな氣配が少しもなく、皆眞面目に愼むでゐるのです。中には肩で吐息をしながら『あゝ這麼商賣をしてゐればこそ這麼苦しい樣な思ひをするのだから、此の苦から遁れるのは矢張り商賣を罷めて堅氣な營業をするより外にない』と言つてゐる者もあるのです。若し彼等が眞實に常にそんな考へを抱へてゐるならば、遊廓は忽ち倒れて了ふのでありませう。けれども彼等がそんな眞面目な考へを抱くのは、斯ういふ騒ぎがあるからでありまして、又舊の狀態に復つたら又候そんな考へは何處へか吹去つて、酒に親むやうになるのは必然であらうと思ふ時、私はいつ迄も此の考へを各樓主の心から離せたくないと祈らずには居られないのです。米騒動は寔に不祥事には違ひありません。併し私が此の事情から考へて觀ると、此騒動に依つて何れ丈け彼等に良い刺戟を與へたか、禍を變じて幸となすといふのは此の事かとも思はれました。正午中村樓の一藝妓が來ての話には『先刻中村樓の前へ集つた數人が若し火をつけるならば此の邊からが宜いだらう。さうするとどちらへ風が向ても女郎屋許りだから安心なものだ』といふ話を聞いた同樓の妻君がイヤ最う這麼外見許りが立派な商賣て、其實弱い〳〵商賣は一日も早く罷めて堅氣になるに限る』と謂ふ事でした。

遊廓は公娼制度の形ちが表はれた事實であります。政府が婦人の貞操を金錢に依つて買ふ事が出來るから、慾望を制する事が出來ない男子は何時でも遊興に行く可してあると、立派に政府が之れに保證をしてゐるのです。政府は常に此の遊廓を保護して、なる可く遊廓の爲めになるやうにしてゐるやうです。ですから今度の騒ぎでも多數の警官が嚴重な警戒して、男子には遊興の便と安全とを與へ、樓主側へは商賣の差支ないやうに十分な

る方法と手段とを採つて遣るのでせう。多數の警察官が出張して警戒しなければ安心の出來ない此の遊廓、それは社會の大多數の人の怨敵となつてゐる處、それ程社會は此遊廓に對して大なる憎心を抱いてゐるものを何故政府はあらゆる反對を蹴り乍ら固守するのでせう。私共には法律の經濟のといふ事は更に判りませんが、少くとも冷靜に此の狀態から考へて見れば誰しも社會の犯罪の動機が茲より生れて來るのは判りきつてゐる事とは思ひませんか。さるにても國民も又た此の問題に就ては少からざる責任があるのですから、私はます〳〵此の問題に就て眞面目に考へ、眞面目に彼の憐れな婦人を救はればならないといふ決心と覺悟とが彌や上にも固くなつて行くのです。

廿九日（水曜日）

夕方歸つて見ると、片田舍の伊曾子よりとした一封の手紙が來てゐるのです。筆蹟や又た差出人から考へても見覺えのない、何處から來たのか知らと訝りながら封を切つて見る『亂筆にて御免遊ばせ……昨日は暑い處を態々御見舞下さいまして――』とありますので、直ぐにあの方だれといふ事が判りました。昨日洗滌の方を早く切上げて、市外の大坪に養生してゐられる舊と藝妓で若吉さんといふ方を見舞ました。其の禮狀なのでした。

考へて觀ると全く彼の方は難儀をしたのです。私の知つてゐる人々の中で一番長く病院生活をしたのは若吉さんでした。けれどもどこか並の人と違つた處があるやうなので、私は常々から注意してゐますと、何の條並の人と違ふ點が判つたのです。それは何日でしたか日は忘れましたが、或る日のこと讃美歌の第四百廿七番の

『春のあさけ、夏のまひる
　秋の夕邊、冬の夜も
　いそしみまあ〳〵道の當に
　　足穗となる時來たらん……』

といふのを歌つてゐるのです。ソーと私は其の室の傍まで行つて、靜に彼の人が歌ふ其聲から眞實の心持ちを知りたいと思ひましたが、歌の終りて『アーメン』と、如何にも自暴自棄になつたやうな何か品物を打棄るやうな言振りなのです。私は此の人は極めて幼ない時には、必ず教會へ行つた事のある人だと思ひました。そして此の人は遣りやうによつたら、又再び舊の眞面目な考へにするやうに出來ると思ひまして、昨日病氣見舞に行つたのです。そして種々神樣の事に就て話しましたが、矢張り舊と聞いた事ある人だけに話がよく判つたのです。私は喜ばしさに堪へ切れなくなつて、彼の人の前で祈りを捧げました。

卅一日（土曜日）

青木樣の事が今朝の某新聞紙に出て居りました。それが如何にも讃めたゞえて書いてありましたから、よくよく讀むで見ると米騷動から感激して、貧しき人の爲めに金を寄附しませうか。それとも家賃を下げて遣りませうかと警察署へ出頭して眞面目に相談したといふ事であります。そして新聞紙は斯る美擧を魁した人の慈悲心は實に大したものであるといふやうな書振りなのです。けれども眞實彼の人達がさういふ考へがあるならば、何も態々警察署まで出頭してそんな事を相談するには及ばぬと思はれました。貧しい人を助けるといふ趣旨が最う少し徹底したならば、必ず金錢で人間を縛りそして數多の罪人を作り出すやうな事が出來なくなるだらうと思ひまして、如何にも殘念に思ひました。それにしても此度の米騷動位遊廓の人々に大なる刺戟と教訓とを與へたものはありますまい。私は此の意味に於て騷動その者は寔に憎むべき事又た悲むべき事には違ひありませんが、又た一方には斯樣な善良な動機を與へて吳れたといふ事も見遁す事は出來ないのでありますから、不祥事を幸福に更へ、悲みを喜びに代へるといふ事は此の事かと染々思ひました。ですから私は遊廓といふやうな不祥地があるのを變じて幸福な社會に清める爲に於て、遣り樣一つによつて何うにでもなる事と考へました。

謹告　（編輯局）

毎度本誌の發送が遲れまして、會員諸氏に對し尠からざる御迷惑を掛けましたのは誠に申譯もない次第であります。欠員であつた記者と事務員がまた定まりませぬが、今後は必ず期日に遲れぬやうに發行致しますから、どうぞ不惡御思召下さるやう願上げます。

大正九年二月廿五日印刷（毎月一回十日發行）
大正九年二月廿五日發行（一部定價金拾八錢）
編輯兼發行人　神田區今川小路二丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川區大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　本郷區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會發行所
電話神田三八〇一番　振替東京二七〇七二番

●廣告主へ御用の際は必ず雑誌「療清」によ る旨御申添を乞ふ●

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori, Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

——→Dr. K. TAKATA←——

Within a few minutes from the Chigasaki Raiway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone: Chigasaki **No. 2.**

診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜の他

院長

診察、月、木、金午前及木午後六時

林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附内）

電話 番町 一六二番 五一六番

東洋内科醫院

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

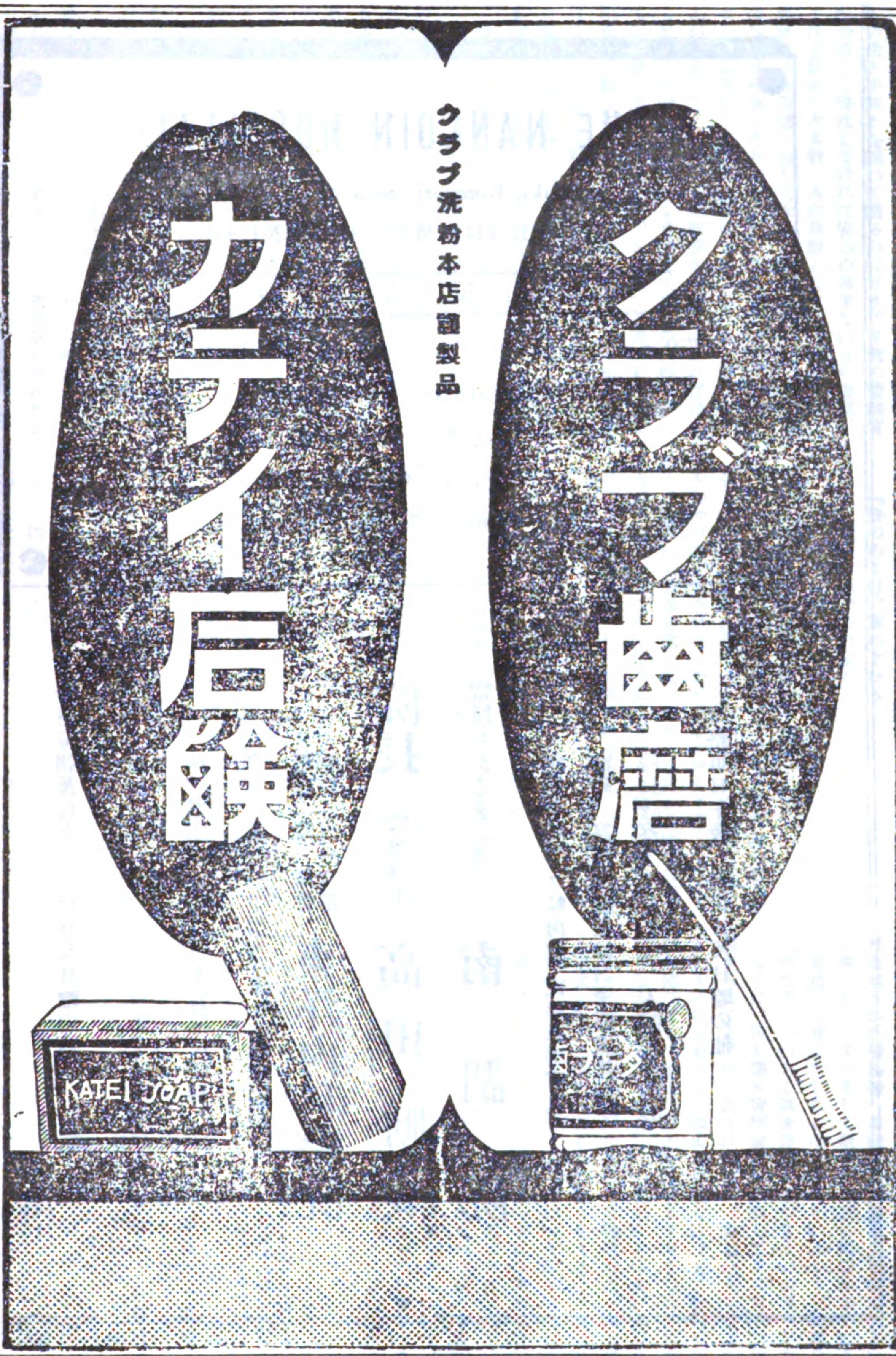
神奈川縣茅ケ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後　入院診後應需

診察毎日午後　但祭日及日曜の他

（大正七年十一月一日第三種郵便物認可
大正九年二月二十五日印刷納本）（毎月一回十日發行）



大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋、
警醒社、北隆館、至明堂、

定價壹冊金拾八錢